仙台市文化財調査報告書第89集

仙台市
高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅴ

昭和61年3月

仙台市教育委員会
仙台市交通局

仙台市文化財調査報告書第89集

仙台市
高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅴ

昭和61年3月

仙台市教育委員会
仙台市交通局

序

文化財行政につきましては、日頃、市民はもとより、各関係機関の御理解と御協力をいただいておりますこと心から感謝にたえません。

最近、とりわけ都市づくりや都市像についての関心が高まり、文化を考える上での基礎的資源として、文化財の保存に対する関心も高揚していますことは大変喜ばしい限りであります。

文化財は先人が培ってきた歴史的所産でもあり、国民、市民の共有の文化の財産として保護・保存され、後世にしっかりと継承されるべきものであります。教育委員会といたしましても、こうした意義をしっかり受けとめ、鋭意努力している所であります。

ここに報告される概報は、高速鉄道建設に係る発掘調査の成果でありますが、これも文化財行政の一貫として実施されたものであります。本調査に際しましては多くの市民の方々、学識者の御協力、御指導と各関係機関の一体となった事業として実施されたものでありまして、この御支援に対し深心なる感謝を申し上げますとともに、本書が貴重な学問的資料として、また市民各位の学習資料として御活用いただければ幸いに存じます。

最後にこうした文化財に対する変ることない御支援、御指導をお願い申し上げまして、刊行の御挨拶といたします。

昭和61年３月

仙台市教育委員会

教育長　藤井　黎

例　　言

1．本書は、仙台市高速鉄道南北線関係遺跡の六反田遺跡・富沢水田遺跡鳥居原地区における昭和60年度の遺跡発掘調査概報である。

2．本概報は調査の速報を目的とし、作成にあたり次のとおり分担した。

本文執筆　Ⅰ・Ⅲ……篠原信彦　　Ⅱ・Ⅳ……吉岡恭平

Ⅴ……斎野裕彦

整理作業　会田容弘、佐藤茂己、瀬江　敏、高橋孝次、松本幸子、西木広枝、森　陽子、村上祥子、長江恭子、大友節子、菊地つね子、小池房子、今野ちぎよ、菅原みほ子、高橋ヨシ子、千田あや子

編集は担当職員が行った。

3．調査にあたり次の方々の御指導、御教示を賜った。

新井房夫(群馬大学)、庄子貞雄(東北大学)、庄司駒男(東北大学)、藤原宏志(宮崎大学)、山田一郎(東北大学)、豊島正幸(東北大学)

4．本書に使用した地図は国土地理院発行の５万分の１「仙台」を複製した。

5．本書の土色については「新版標準土色帳」(小山・竹原：1970) を使用した。

6．本書中の方位角は真北線を基準としている。

7．本書中で使用した遺構略号は次のとおりである。

ＳＤ　溝　　跡

ＳＩ　竪穴住居跡・竪穴遺構

ＳＫ　土　　壙

ＳＲ　河　　川

ＳＸ　その他の遺構

8．本書に関係する出土遺物・作成図面・写真は一括して仙台市教育委員会が保管している。

本 文 目 次

序　文

例　言

Ⅰ．調査経過……1

Ⅱ．遺跡の立地と環境……4

Ⅲ．六反田遺跡……5

1．遺跡の立地　　2．調査の方法

3．調査の概要　　4．まとめ

Ⅳ．富沢水田遺跡鳥居原地区……17

1．遺跡の立地　　2．調査の方法

3．調査の概要　　4．まとめ

Ⅴ．富沢水田遺跡鳥居原地区33層の火山灰について……34

1．火山灰の検出　　2．火山灰の分析結果

3．^{14}C 年代測定結果　　4．小結

挿図・表目次

第1図　遺跡の位置図……1

第2図　調査区位置図……2

第3図　遺跡の位置と周辺遺跡……3

Ⅲ．六反田遺跡

第4図　グリッド配置図……6

第5図　遺構配置図……7・8

第6図　ＳＩ１住居跡……9

第7図　出土遺物(1)……10

第8図　出土遺物(2)……11

Ⅳ．富沢水田遺跡

第9図　鳥居原地区
弥生時代水田跡全体図……19・20

第10図　A 換気口区……21

第11図　B 換気口区……22

第12図　②③番出入口区……23

第13図　杭実測図(1)……24

第14図　杭実測図(2)……25・26

第15図　杭実測図(3)……27

Ⅴ．富沢水田遺跡

第16図　富沢水田遺跡鳥居原地区
深掘り区北壁断面図……34

第17図　下ノ内浦遺跡
基本層位模式図……36

第1表　調査一覧表……1

写真図版目次

Ⅲ．六反田遺跡

写真１　調査前の状況……13
写真２　調査区全景（４層）……13
写真３　調査区全景（６層）……13
写真４　ＳＩ１住居跡……14
写真５　遺物出土状況……14
写真６　ＳＤ２溝跡……14
写真７　ＳＤ４溝跡……15
写真８　東壁断面……15
写真９　出土遺物……16

Ⅳ．富沢水田遺跡

写真10　昭和57年度小畦畔認状況……19・20
写真11　昭和58年度水田跡検出状況…19・20
写真12　昭和59年度水田跡検出状況…19・20
写真13　Ａ換気口区南壁断面……28
写真14　Ａ換気口区杭No.１、杭No.２……28
写真15　Ａ換気口区杭No.７……28
写真16　Ａ換気口杭No.４……29
写真17　Ｂ換気口区西壁断面……29
写真18　Ｂ換気口区7c層水田跡……30
写真19　Ｂ換気口区7d層水田跡……30
写真20　Ｂ換気口区7c層足跡状凹み……30
写真21　Ｂ換気口区東壁断面……31
写真22　Ｂ換気口区東壁断面……31
写真23　②③番出入口区7c層水田跡全景…31
写真24　②③番出入口区7c層水田跡……32
写真25　②③番出入口区東壁断面……32
写真26　②③番出入口区
　遺物No.79、No.80の杭……32
写真27　杭……33

Ⅴ．富沢水田遺跡

写真28　富沢水田遺跡鳥居原地区
　深掘り区北壁断面……34
写真29　富沢水田遺跡鳥居原地区
　深掘り区西壁断面……34
写真30　下ノ内浦遺跡15層中出土遺物……36

Ⅰ．調査経過

第１図　遺跡の位置図
（１．富沢水田遺跡鳥居原地区　２．六反田遺跡）

仙台市高速鉄道南北線建設に伴う遺跡の発掘調査は、今年度で５年目を迎え、４月10日から開始した。高速鉄道本線部分の調査は昨年11月で完了し、今年度は駅関係施設や道路建設に伴い、富沢水田遺跡と六反田遺跡の２箇所を調査した。

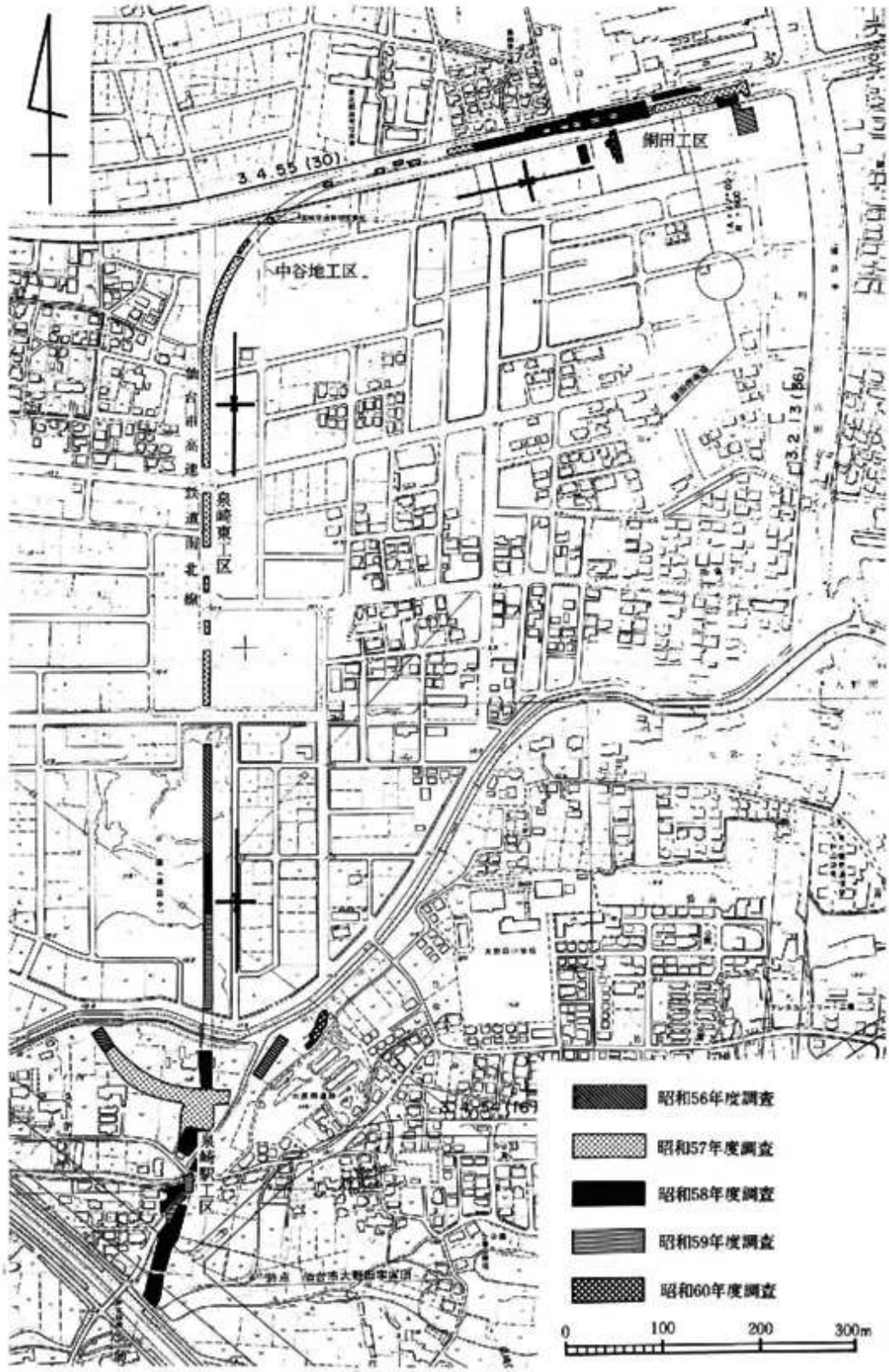
富沢水田遺跡鳥居原地区では長町南駅の②③番出入口・A換気口・B換気口の３地点の調査を実施した。出入口やB換気口では弥生時代中期の水田跡が検出されたが、平安時代の水田跡については攪乱が全体に及んでいたため不明である。弥生時代の水田跡では出入口で面積81㎡の長方形の区画が検出されている。B換気口ではこの水田跡の直下で畦畔が検出され、水田跡であることが明らかとなった。A換気口は本線部分と鍋田変電所との間に位置している。調査区が狭いため、水田跡の区画は捉えられなかったが、平安時代・弥生時代の水田作土は検出され、弥生時代の足跡状の凹みが検出されている。また弥生時代中期の水田跡の下層でも杭６本が検出された。

六反田遺跡では市道「下ノ内・六反田線」の迂回道路について調査を実施した。すでに供用開始された道路であったため、交通制限をしての調査となった。今回の調査は対象の北側半分で、残半分は昭和61年度調査予定である。今回の調査で奈良時代の竪穴住居跡１棟、古墳時代・平安時代の溝跡、縄文時代の河川が発見された。

調査を実施するにあたり、仙台市交通局高速鉄道建設本部と度々の協議を行い、昭和60年11月28日、六反田遺跡の調査を最後に本年度の野外調査を終了した。これにより、高速鉄道建設に伴う発掘調査は、市道「下ノ内・六反田線」及び富沢駅東側の市道「下ノ内・塚田線」の道路建設部分となった。

第１表　調査一覧表

遺跡名 / 所在地	時代 / 種類	調査期間	調査面積	担当職員	備考
六反田遺跡 / 仙台市大野田字五反田他	縄文～平安 / 集落跡	S60. 9. 9～ S60. 11. 28	280㎡	篠原信彦・吉岡恭平	
富沢水田遺跡(鳥居原地区) / 仙台市長町南三丁目他	弥生～近中世 / 水田跡	S60. 4. 10～ S60. 8. 9	710㎡	篠原信彦・吉岡恭平・高橋　泰	鍋田工区


3.4.55 (30)
中谷地工区
泉崎東工区
泉崎駅工区
3.2.13 (56)
昭和56年度調査
昭和57年度調査
昭和58年度調査
昭和59年度調査
昭和60年度調査
0
100
200
300m

第2図　調査区位置図

遺跡番号	遺跡名称	所属時期	遺跡番号	遺跡名称	所属時期
C－197	六反田遺跡	縄文(中・後・晩)、弥生～平安	C－106	三神峯遺跡	縄文(早・前・中)
C－301	富沢水田遺跡	弥生～近世	C－107	芦ノ口遺跡	平安
C－196	伊古田遺跡	縄文(後)、古墳～平安	C－112	大野田遺跡	縄文(後)、奈良、平安
C－299	下ノ内遺跡	縄文(中・後)、弥生～平安	C－152	鍛冶屋敷A遺跡	奈良、平安
C－300	下ノ内浦遺跡	縄文(早・前・後)、弥生～中世	C－153	堰ノ内遺跡	古墳～平安
C－007	砂押古墳	古墳	C－155	原東遺跡	古墳～平安
C－008	富町古墳	古墳	C－156	裏町東遺跡	平安
C－014	教塚古墳	古墳	C－195	富沢上ノ台遺跡	奈良、平安
C－015	金洗沢古墳	古墳	C－198	諏東遺跡	古墳、奈良、平安
C－017	金剛八幡古墳	古墳	C－201	富沢清水遺跡	奈良、平安
C－031	土手内横穴群	奈良、平安	C－203	砂押屋敷遺跡	平安
C－038	王の塚古墳	古墳	C－233	山口遺跡	縄文(早～晩)、弥生～中世
C－039	春日社古墳	古墳	C－266	元袋Ⅱ遺跡	縄文(後)、奈良、平安
C－040	五反田古墳	古墳	C－427	土手内窯跡	平安
C－043	烏帽子塚古墳	古墳	C－520	富沢館跡	奈良、平安、中世
C－046	五反田箱式石棺	古墳	C－658	元袋古碑群	中世
C－052	五反田木棺墓	古墳			

第3図　遺跡の位置と周辺遺跡

Ⅱ．遺跡の立地と環境

仙台市高速鉄道南北線は、七北田を起点とし、七北田丘陵、仙台市街地をのせる段丘群を南下し、広瀬橋付近から宮城野海岸平野へ入り、終点泉崎に至る。今年度の調査は、昨年度に引き続き宮城野海岸平野の中の郡山低地において行なわれた。郡山低地は北東縁を広瀬川、南縁を名取川、北西縁を長町一利府線により画されている。ここには広瀬・名取両河川により形成された自然堤防、後背湿地が見られる。自然堤防は広瀬川右岸、名取川左岸に見られ、名取川左岸には旧笊川が曲流している。また郡山低地の中央には南北に走る自然堤防が見られる。これら自然堤防の背後には後背湿地が広がっている。

調査対象区域は、郡山低地の中でもその西半部である。ここには北半の鳥居原、中谷地、泉崎に広範な後背湿地が広がり、南半の下ノ内、大野田には自然堤防が見られる。調査は、富沢水田遺跡、六反田遺跡で行なわれた。富沢水田遺跡は低地西半部ほぼ中央の後背湿地に立地している。六反田遺跡は旧笊川の右岸の自然堤防上に立地している。

この郡山低地西半部及びその周辺は仙台市内でも数多くの遺跡が分布する地域であり、とくに重層構造の遺跡が多数存在することが近年の調査で明らかにされている。南半においてその発端となったのは昭和51年に実施された六反田遺跡の調査であり、その後昭和56年に開始された高速鉄道関係の遺跡、伊古田・下ノ内・下ノ内浦遺跡、昭和53・56・57年の山口遺跡、昭和59年の六反田遺跡などの一連の調査成果から、この地域には、縄文時代早期前葉から中期・後期・晩期、弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世、近代、そして現代に至るまでの人間活動の痕跡が、地表下約２～４ｍの土層に刻み込まれていることが明らかになった。北半にある富沢水田遺跡は、昭和57年の山口遺跡における平安時代の水田跡の発見を契機とし、同年実施された高速鉄道関係遺跡調査で弥生時代と平安時代の水田跡が検出されたことにより認識されるに至った。昭和59年度までの調査により弥生時代２時期、平安時代２時期、中世１時期の水田跡の存在が明らかになっていたが、さらに昭和60年度の都市計画街路長町一折立線に伴う調査で、あらたに弥生時代の３時期の水田跡と古墳時代の水田跡が検出されている。

その他には縄文時代の遺跡として三神峯遺跡・大野田遺跡・元袋Ⅱ遺跡などがある。古墳時代の遺跡は数多く、西多賀周辺には裏町古墳・金洗沢古墳・砂押古墳等が、大野田には鳥居塚古墳・王の壇古墳・春日社古墳、大野田１号・２号古墳等がある。また、富沢水田遺跡の北には金岡八幡古墳が、西南部には教塚古墳がある。中世では新笊川の南に富沢館跡がある。

尚、郡山低地西半部は旧来自然堤防上に集落や畑が営まれ、後背湿地には水田が広がっていたが、近年行なわれた土地区画整理及び高速鉄道建設に伴い、開発化が急速に進み、その景観は変貌の一途をたどっている。

Ⅲ．六反田遺跡（C－197）

1．遺跡の立地

六反田遺跡は、東北本線長町駅の南西約2kmの仙台市大野田字五反田・六反田地内に位置し、名取川によって形成された自然堤防上に立地している。遺跡の北側を名取川の一支流である旧笊川が曲流している。標高は12m前後である。

周辺の遺跡は、西南に伊古田遺跡（C－196）や下ノ内遺跡（C－299）が隣接し、旧笊川の北岸には山口遺跡（C－233）や下ノ内浦遺跡（C－300）など縄文時代から中世にかけて連綿と続く遺跡が多数存在している（第3図）。

2．調査の方法

市道「下ノ内・六反田線」建設に伴って、六反田遺跡に該当する部分の北半分（約780㎡）を対象として調査を開始した。ガス管の埋設や共同住宅駐車場の出入口を確保するため調査区（Ⅱ区）の面積は約280㎡となった。グリッドは3×3mを基本とし、東西軸（A～D）、南北軸(1～14）を設定して調査を実施した（第4図）。

3．調査の概要

今回の調査によって縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代の遺構や遺物が検出された。

基本層位（第5図3、写真8）

基本層位は昭和56年度調査のⅠ区を基準とし、1・4～19層まで確認された。1・4～7層まではⅠ区と対応されたが、それ以外は多少異なっている。4層は暗褐色シルト層で、奈良・平安時代の遺構・遺物が検出された。5層は黄褐色砂、6・8層は黒褐色粘土質シルト層で、5・6層上面で古墳時代の遺構・遺物、6・8層で弥生時代の遺物が少量出土している。9～12層はにぶい黄褐色の砂質シルト層、14層以下はにぶい黄褐色の砂質シルトと粘土質シルトの互層となる。14・15・19層で縄文時代の遺物が少量出土している。

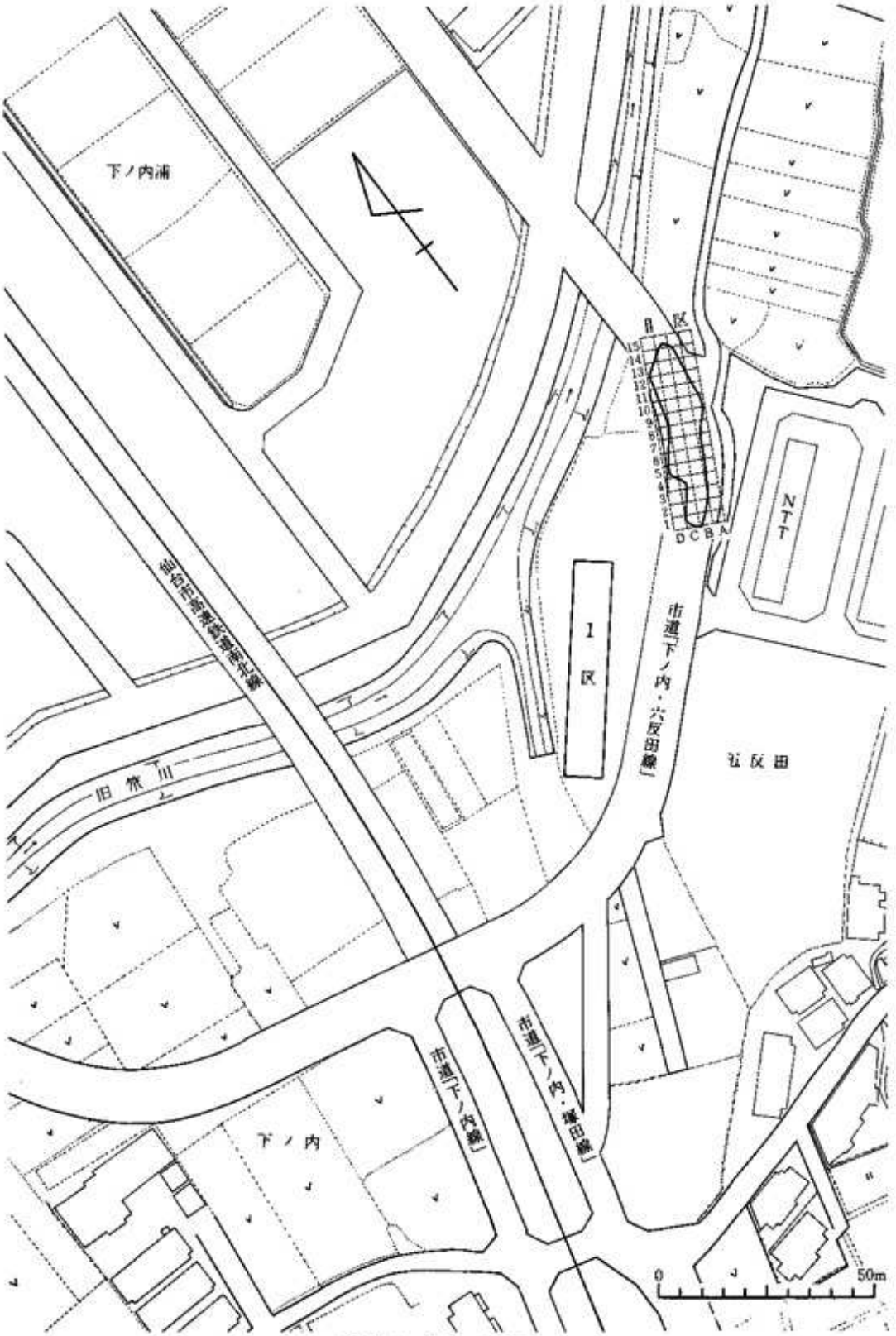
SI1住居跡（第6・7図、写真4・5・9－1～4）

〔遺構の確認〕　Ⅱ区北端のC・D－12・13グリッドの基本層位第4b層で検出され、住居跡のほとんどが調査区外に位置している。

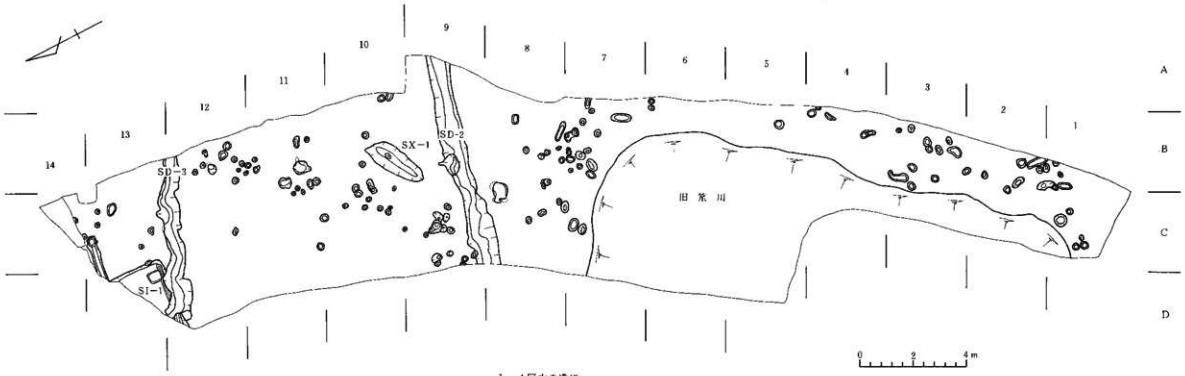
〔重複・増改築〕　SD3溝跡に切られている。

〔平面形・規模〕　住居跡の南東コーナーと煙道部のみであるが方形を呈するものと考えられる。主軸方向はE－10°－Sである。

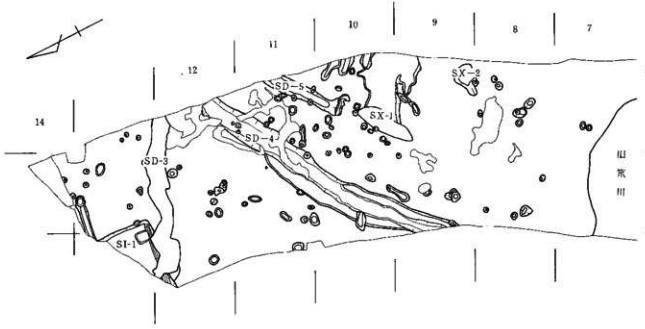
〔堆積土〕　4層に分けられ、暗褐色のシルト・粘土質シルト層である。堆積状態は自然堆積である。


下ノ内浦
II区
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
D C B A
NTT
1区
市道「下ノ内・六反田線」
六反田
旧常川
市道「下ノ内線」
市道「下ノ内・堺田線」
下ノ内
0
50m

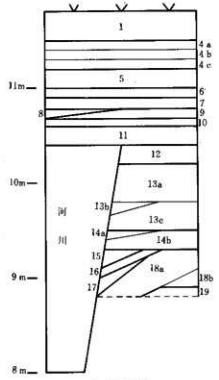
第4図　グリッド配置図



1．4層中の遺構



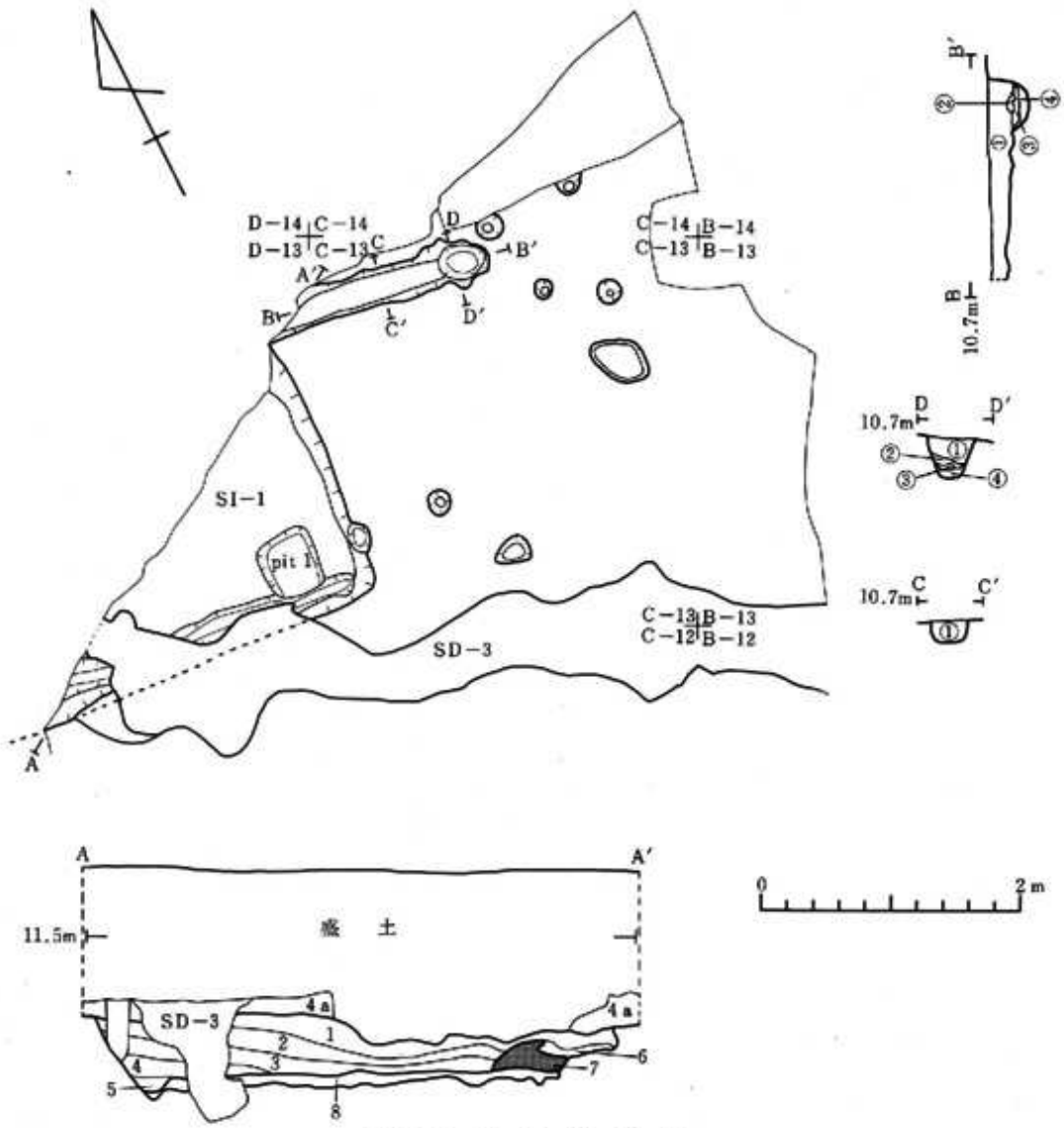
2．6層上面の遺構



3．基本層位

第5図　遺構配置図

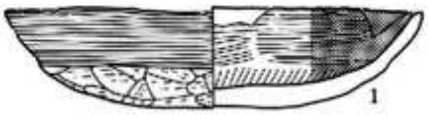
層位	上　色	上　性
1		表土、盛土
4a	10YR5/1にぶい黄褐色	粘土質シルト
4b	10YR5/1にぶい黄褐色	粘土質シルト
4c	10YR5/1にぶい黄褐色	粘土質シルト
5	10YR5/2黄　褐　色	細　　砂
6	10YR5/2黒　褐　色	粘土質シルト
7	10YR5/1にぶい黄褐色	粘土質シルト
8	10YR5/2黒　褐　色	シ　ル　ト
9	10YR5/1にぶい黄褐色	砂質シルト
10	10YR5/1にぶい黄褐色	砂質シルト
11	10YR5/2黄　褐　色	砂質シルト
12	10YR5/1にぶい黄褐色	粘土質シルト
13a	10YR5/2黄　褐　色	砂質シルト
13b	10YR5/2灰黄　褐　色	砂質シルト
13c	10YR5/2黄　褐　色	砂質シルト
14a	10YR5/1にぶい黄褐色	粘土質シルト
14b	10YR5/1にぶい黄褐色	粘土質シルト
15	10YR5/1にぶい黄褐色	砂質シルト
16	10YR5/1にぶい黄褐色	粘土質シルト
17	10YR5/1にぶい黄褐色	砂質シルト
18a	10YR5/1にぶい黄褐色	粘土質シルト
18b	10YR5/1にぶい黄褐色	粘土質シルト
19	10YR5/1にぶい黄褐色	粘土質シルト

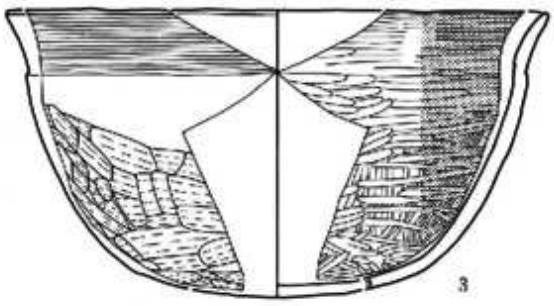


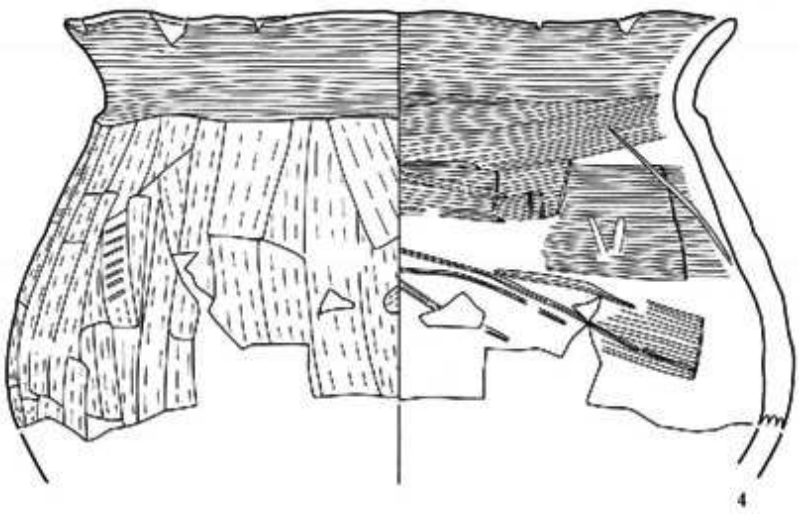
SI−1 土層観察表

層位	土色	土性	備考
1	10YR 3/4 暗褐色	シルト	焼土粒、炭化物を含む
2	10YR 3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物を多く含む
3	10YR 3/4 暗褐色	シルト	炭化物を多量に含む
4	10YR 3/4 暗褐色	シルト	炭化物を含む
5	10YR 3/4 黒褐色	粘土質シルト	多量の焼土粒、炭化物を含む
6	7.5YR 3/4 黒　色	シルト	火を受けて焼けている(煙道)
7	10YR 3/4 褐　色	砂質シルト	10YR 3/4(黄褐色)の砂質シルト混入(カマド袖)
8	10YR 3/4 暗褐色	シルト	焼土炭化物を含む(住居跡の掘り方)
①	10YR 3/4 暗褐色	シルト	焼土粒、炭化物を含む
②	7.5YR 3/4 褐　色	シルト	焼土粒、炭化物粒を含む
③	7.5YR 3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック
④	7.5YR 3/4 黒　色	シルト	炭化物粒を含む
4a	10YR 3/4 褐　色	粘土質シルト	炭化物を若干含む(基本層位)

第6図　SI1住居跡



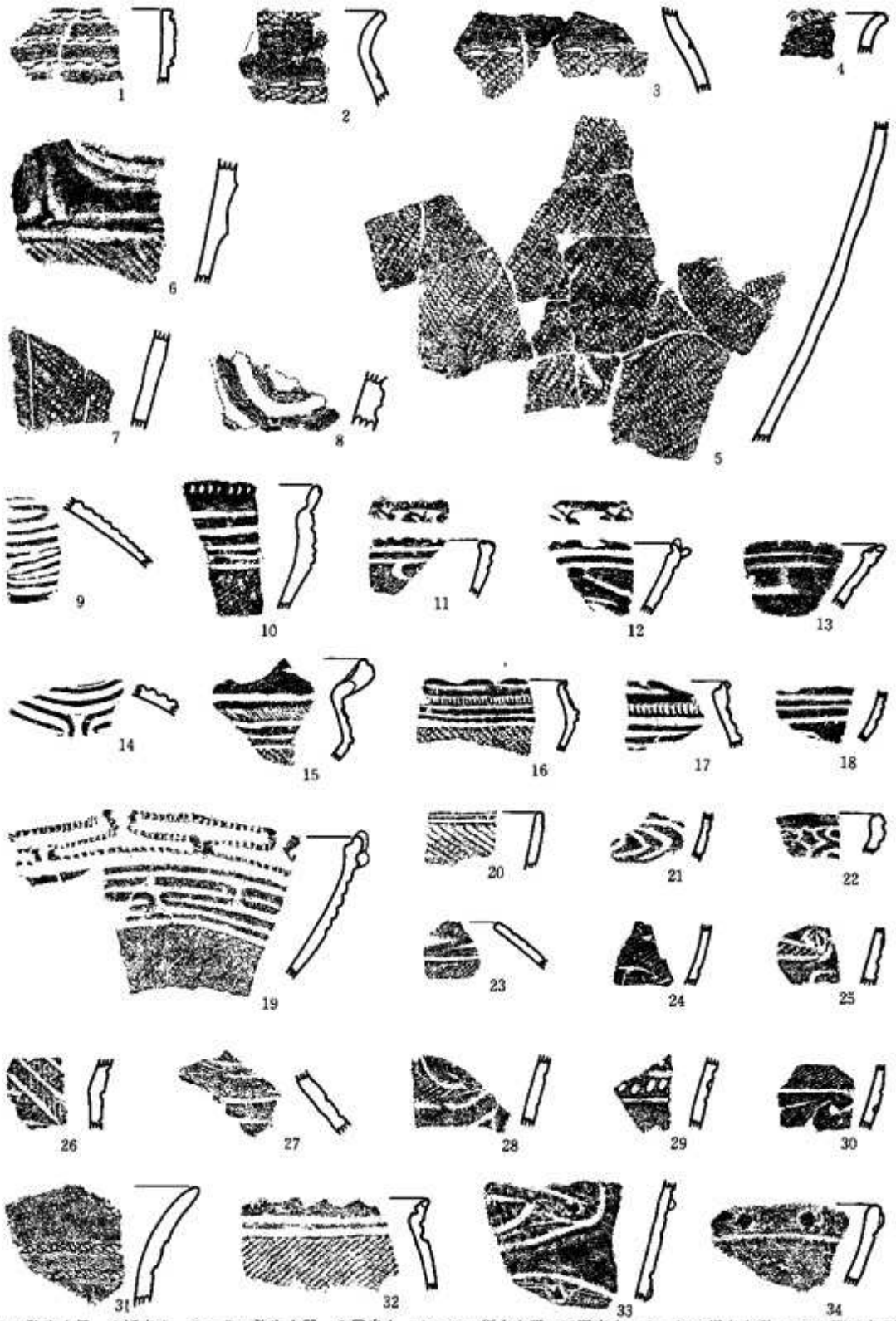




0 10cm

番号	出土状況	種類	器形	外面調整	内面調整
1	SI1住居跡、P_1	土師器	坏	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理
2	SI1住居跡、P_1	土師器	坏	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理
3	SI1住居跡、床面	土師器	大型坏	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理
4	SI1住居跡、1層	土師器	甕	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ヘラナデ

第7図　出土遺物 (1)



（1…弥生土器、6 墳出土、2～5…弥生土器、8 層出土、6～8…縄文土器、19墳出土、9～34…縄文土器、SR 1 河川出土）

第 8 図　出土遺物 (2)　縮尺⅓

〔壁〕　床面よりやや傾斜をもって立ち上がり、壁高は東壁で約30cm、南壁で約40cmである。

〔床面〕　床面は貼床でほぼ平坦である。掘り方の厚さは約10cmで焼土を多量に混入している。

〔柱穴〕　ピット1個が検出されたが柱穴は不明である。

〔周溝〕　南壁で検出され、幅約20cm、深さ約10cmである。

〔カマド〕　東壁に付設されているが燃焼部は調査区外にある。煙道部は長さ1.8m、幅30cmで東にのびる。

〔出土遺物〕　遺物は床面、ピット、堆積土より土師器坏、甕が出土している（第7図）。

溝　跡（第5図、写真6・7）

溝跡は4層中で3条（SD1～3）、5層上面で2条（SD4・5）が検出されている。SD2・3は南北方向に走る。SD4・5は東西方向でSD4の堆積土より土師器高坏が出土している。

SR1河川

基本層位第12層で検出され、調査区のほとんどが河川の中に位置する。堆積土は砂礫、砂である。河川の規模は不明、深さも約2m以上で底面は検出されなかった。堆積土中より縄文土器片が多く出土している（第8図9～34、写真9－12～37）。土器片は縄文後期～晩期で、河川が埋まり終った段階で、弥生土器を混入する8層が堆積している。

遺物包含層（第8図1～8、写真9－5～11）

基本層位第6・8層より弥生土器、第19層より縄文土器が少量出土している。6層出土のものは約20点出土しているが同一個体の破片が多い。第8図の1は3段に交互刺突された天王山式の口縁部片である。8層出土のものは約20点出土している。2～5は同一個体の甕形土器で頸部に横位の列点文、口唇部、胴部にLR縄文が施されており、樹形囲式のものである。15層から凹石、19層から縄文時代中期末葉、後期前葉の土器片が若干出土している。

4．まとめ

○今回の調査では奈良時代の住居跡1軒のほか、溝跡5条、ピット、河川、遺物包含層が検出された。

○弥生時代の包含層は樹形囲式と天王山式の2層検出された。

○これまで同遺跡では縄文時代中期（大木8b式、大木10式）、後期初頭などの遺構・遺物が多量に発見されていたが今回の調査区では発見されなかった。

写真１　調査前の状況

写真２　調査区全景（4層）

写真３　調査区全景（6層）

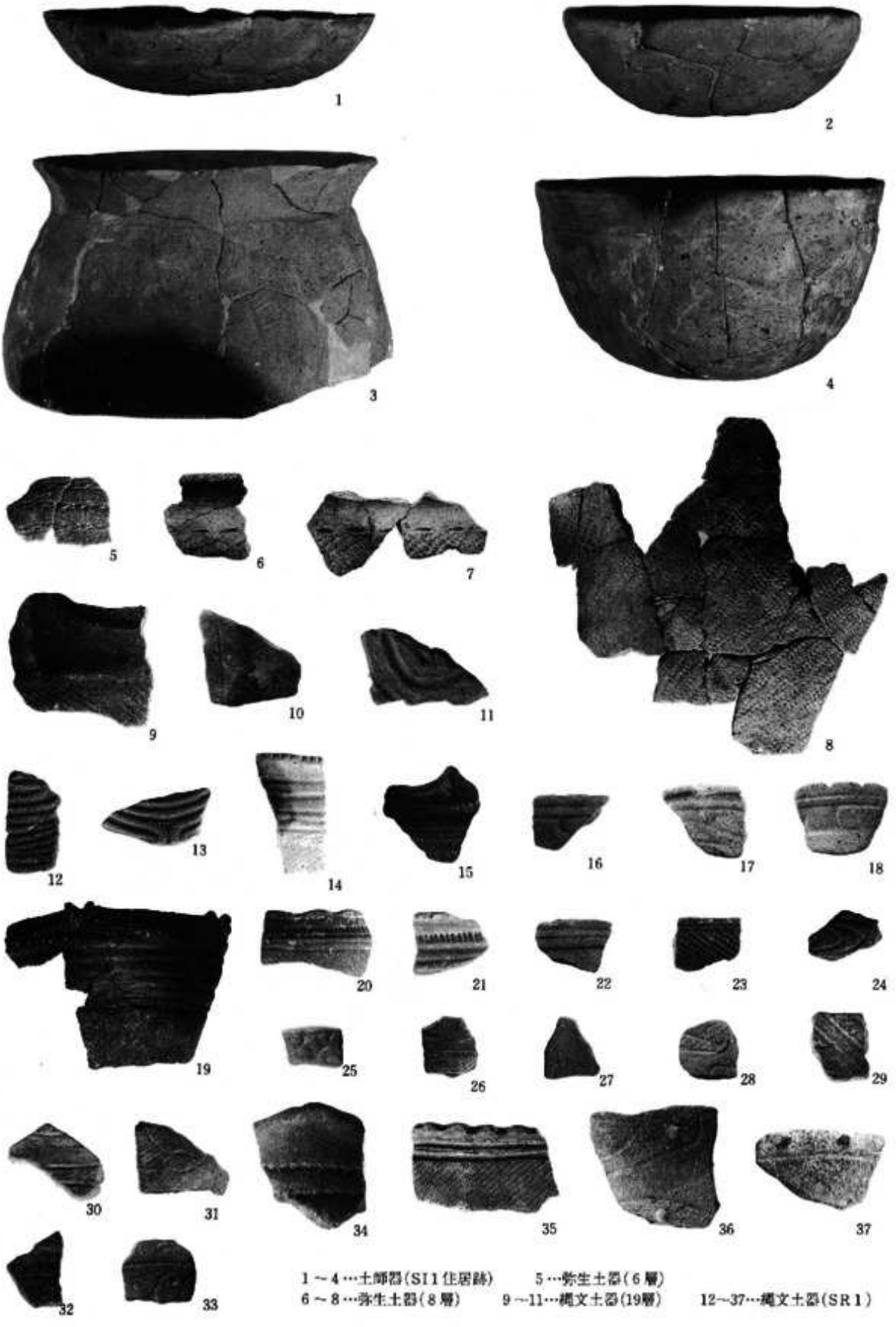
写真4　SI1住居跡

写真5　遺物出土状況

写真6　SD2溝跡

写真7　SD4溝跡

写真8　東壁断面



1～4…土師器(SI1住居跡)　5…弥生土器(6層)
6～8…弥生土器(8層)　9～11…縄文土器(19層)　12～37…縄文土器(SR1)

写真9　出土遺物

Ⅳ．富沢水田遺跡（C-301）鳥居原地区

1．遺跡の立地

富沢水田遺跡は、仙台市の南西部の富沢地区にあり、郡山低地[注1]の西半部、主に広瀬川と名取川とによって形成された後背湿地に立地している。鳥居原地区は、富沢水田遺跡の北東部、東北本線長町駅の西方約800m に位置する。今年度の調査箇所は、仙台市高速鉄道南北線長町南駅のA換気口（A換区）、B換気口（B換区）、②③番出入口（出入口区）の３ケ所で、面積は710㎡である。今年度は当該調査区東方においても都市計画街路長町一折立線の事前調査（約6000㎡）が実施され多大な成果をあげている[注2]。

2．調査の方法

高速鉄道の起点七北田から調査箇所までの距離は、A換区が約12.340km、出入口区が約12.460km、B換区が約12.490kmである。調査区には鋼矢板を打ち込み、調査は1.5～２m の盛土を機械で掘削し、旧耕作土以下の層を人力で行なった。

3．調査の概要

調査箇所は３ケ所で、A換区と出入口区間が120m 、出入口区とB換区間が30m 離れている。A換区と出入口・B換区とふたつにわけて略述する。尚、57年度以降の成果を第９図に示した。

A．A換区（第10図、写真13～16）

層位　１層から24層まで確認された。１～14層は昨年度調査した鍋田変電所部分と同様であり、今回さらに下位に15～24層まで確認している。基底の礫層はさらに４～５m 下に存在する[注3]。１層は旧耕作土、２層はシルト層、３～５層は粘土層、６層以下は泥炭層[注4]である。

概要　調査区の面積は114㎡であるが、既に下水管埋設により破壊された部分があるため、実際の調査面積は約67㎡である。昨年度の調査で２・３・４・11・12層で水田跡が検出され、さらに6b・７層が水田跡である可能性が指摘されていた。今回の調査では４層で畦畔、12層で足跡状の凹み、15・16層で杭などが検出されている。４層の畦畔は部分的検出であるが、南北方向の畦畔はほぼ真北方向に向いており、昨年度４層で検出された平安時代の畦畔と関連するものと考えられる。弥生時代の水田跡とされる12層では畦畔などの遺構は検出されなかったが、足跡状の凹みが９ケ検出された。15～16層では杭が６本検出され（第10図、写真14～16、写真27－１～４）、昨年度まで遺構の最終面と考えられていた12層以下にも遺構が存在することが予想されるに至った。

B．B換区・出入口区（第11・12図、写真17～26）

層位　両調査区共通の層位は１～18層である。１層は旧耕作土、２層はシルト層、３層粘土層、４層以下が泥炭層となる。B換区の深掘りの結果では、25層以下はグライ化した緑灰色系

の土層になり、3～4m下で基底の礫層になる。

概要　B換区の面積は190㎡、出入口区の面積は406㎡である。今回の調査では4層で溝4条、7c層上面と7d層上面で水田跡、8層中と10b層中から杭が検出された。4層の溝跡は、底面から表杉ノ入式期の高台付坏を出土していることから平安時代に属すると考えられる。

7c層の水田跡は、B換・出入口両方で検出された。この7c層は、58年度に弥生時代中期の水田跡が検出された7c層と同一層で、今回検出された水田跡も同時期の水田跡と考えられる。B換区では大畦1条と足跡状の凹みが検出された。大畦は上幅50～150cm、下幅150～200cmである。その方向はN－51°－Wで、58年度に検出した大畦のひとつの延長上にある。水田の標高は8.9～8.8mで、大畦との比高差は6cm前後である。水田上面では7a層を埋土とする足跡状の凹みが多数検出された。出入口区では調査区の中央と北東隅に大畦、それらの間に小畦が検出された。中央の大畦は、上幅100～140cm、下幅150～200cmで、方向N－57°－Wである。北東隅の大畦は、58年度調査の大畦のひとつの延長上にあるものの、その規模などは不明である。小畦は、上幅10～50cm、下幅30～70cmである。この大畦と小畦により区画された5枚の水田が検出された。そのなかでその形状、面積などが推定可能なものは1枚だけであり、その形状は長方形、面積は約81㎡である。しかし区画された水田内は、若干のレベル差をもついくつかの平坦面で構成されており、より小さい区画の水田が存在した可能性も考えられる。水田の標高は8.4～8.9mで南へ傾斜する。水田と大畦の比高差は4～10cmである。水田上面では、7b層を埋土とする足跡状の凹みを多数検出している。また、8層と10b層で杭が検出され(写真26)、7c層以下にも遺構が存在する可能性が考えられる。

B換区では、さらに7d層でも大畦が検出された。大畦は上幅1m、下幅1.7～2.3m、方向はN－71°－Wと7c層の大畦の方向と大きく異なっている。水田面の標高は8.7mで北へ傾斜している。A換区同様に昨年度まで遺構の最終面と考えられていた7c層以下にも水田遺構が存在することが確認されたことになる。

4．まとめ

昨年度まで調査されてきた7c層（A換区・変電所地区での12a層）の弥生時代中期（桝形囲式期）の水田跡が南へも広がっていることが確認された。さらにB換・A換区の成果からさらに下層にも水田遺構などが存在することが指摘されたといえる。(注5)

注

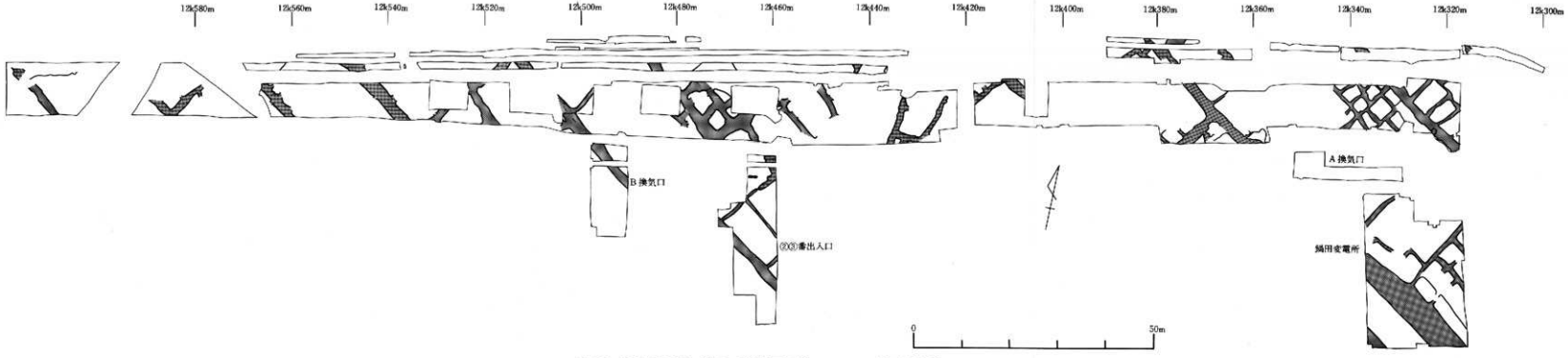
注1）　第Ⅱ章参照。

注2）　斎野裕彦・及川格　1986「仙台市富沢水田遺跡の調査」『考古学ジャーナル』No.260 p.p23～25。

注3）　斎野・及川　1983「Ⅶ．鳥居原遺跡　註9」『高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅱ』p.53。

注4）　及川　1984「Ⅵ．富沢水田遺跡　注4」『高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅲ』p.75。

注5）　注2に示した都市計画街路に伴う富沢水田遺跡の調査においては、より下位の層から水田跡が検出されてくるとともに、さらに2.5m下から縄文時代の遺物が検出されている。

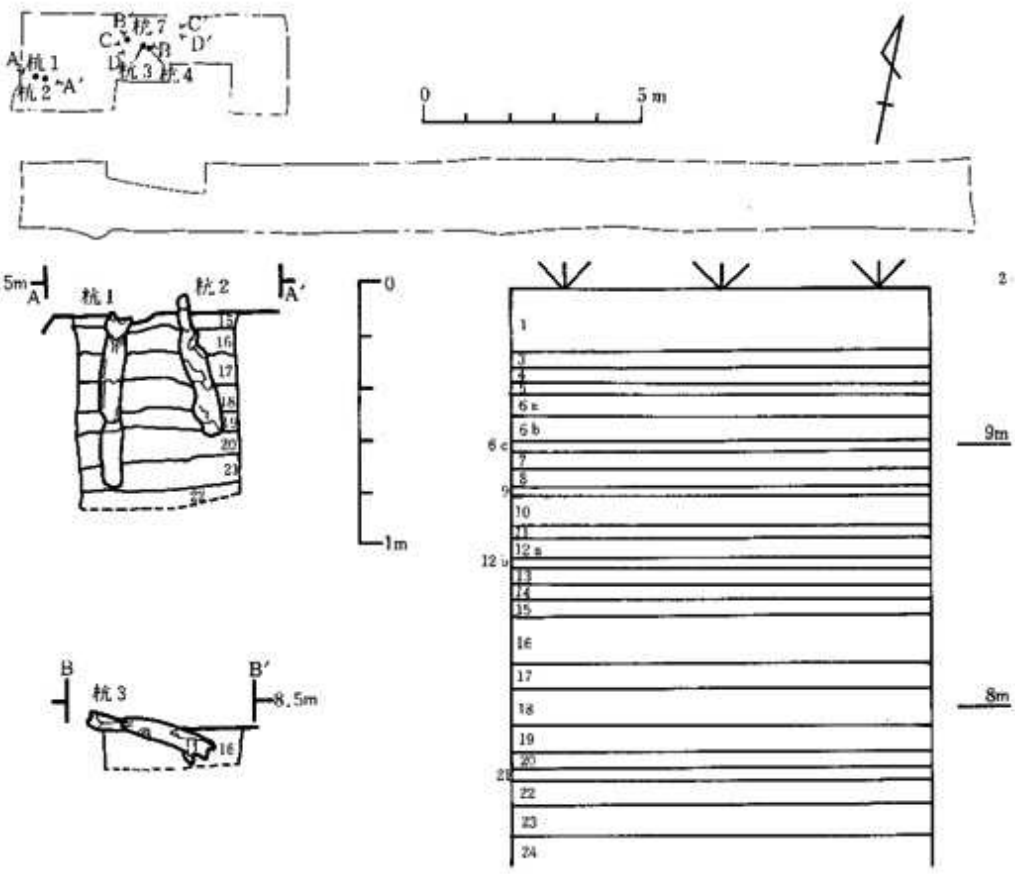


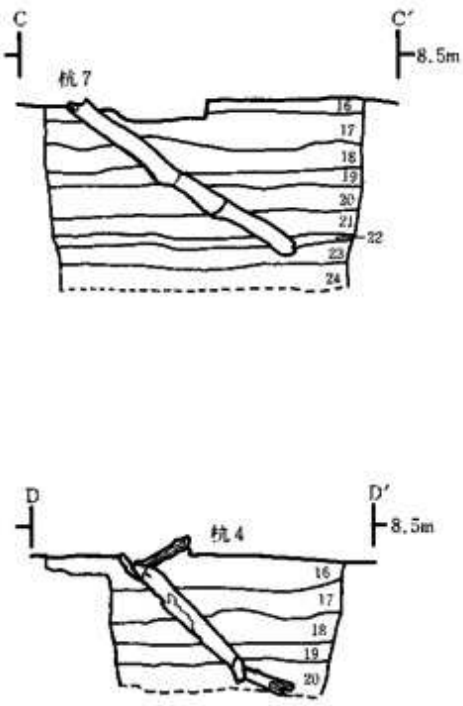
第９図　鳥居原地区弥生時代水田跡全体図（昭和57・58・59・60年度の調査成果）

写真10　昭和57年度　小畦確認状況（本線敷）

写真11　昭和58年度　水田跡検出状況（本線敷）

写真12　昭和59年度　水田跡検出状況（変電所）

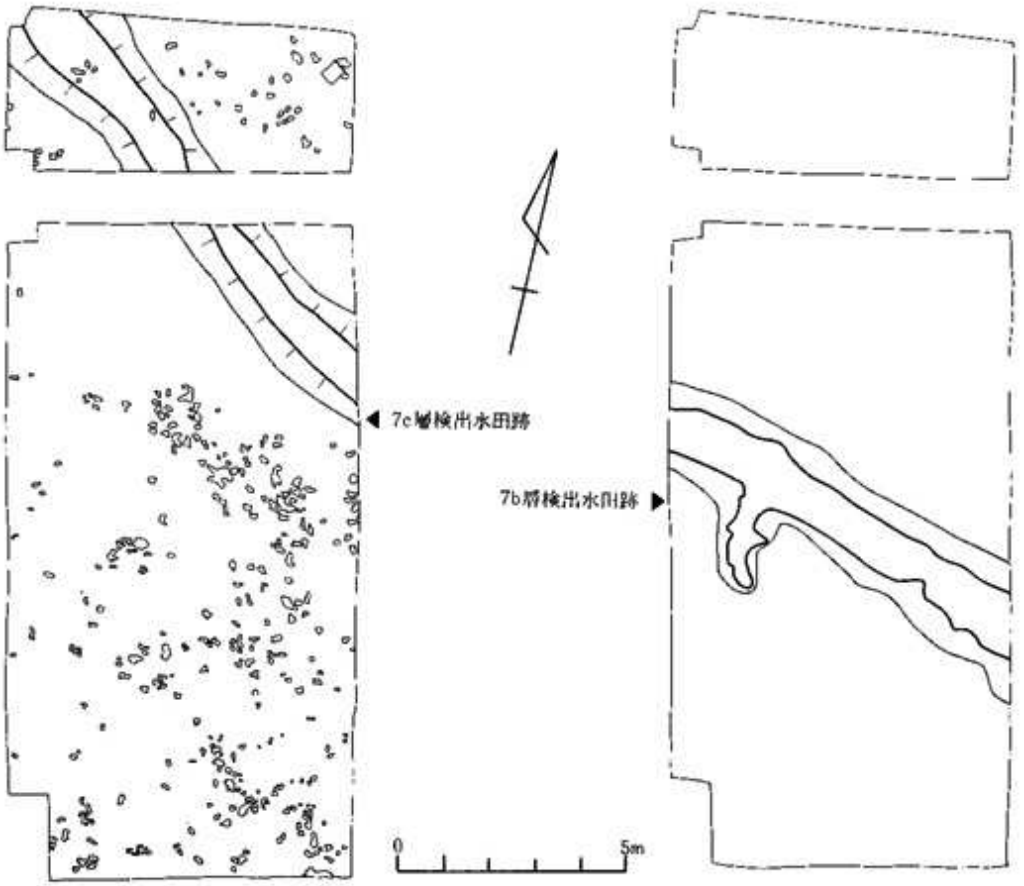


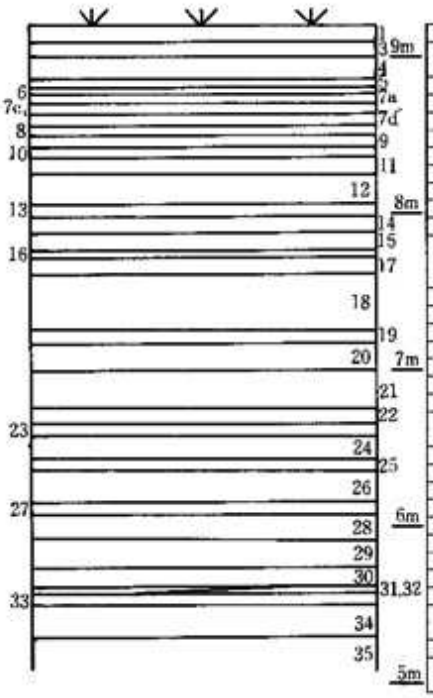


A換気口土層観察表

層位	土色	土性	備考
1	10YR5/3黒 灰色	シルト	旧耕作土
2	7.5YR5/3黒 灰色	シルト質粘土	
3	10YR5/3黒 褐色	粘土	平安時代水田耕作土、灰白色火山灰含む
4	10YR5/3黒 褐色	シルト質粘土	平安時代水田耕作土、灰白色火山灰含む
5	10YR5/3黒 褐色	粘土	
6a	10YR5/3黒 褐色	粘土	灰黄褐色粘土と互層、B換区の4層
6b	10YR5/3黒 褐色	粘土	〃
6c	5Y5/3灰オリーブ色	粘土	黒褐色粘土と互層、 〃
7	2.5YR5/3黒 灰黄色	粘土	B換区の5層
8	7.5YR5/3黒 褐色	粘土	灰オリーブ粘土と互層、B換区の6層
9	5Y5/3灰色	粘土	
10	10YR5/3黒 色	粘土	灰黄褐色粘土と互層、B換区の6_a層
11	10YR5/3灰黄褐色	粘土	弥生時代水田耕作土、B換区の7_b層
12a	10YR5/3黒 灰色	粘土	弥生時代水田耕作土、B換区の7_{ca}層
12b	10YR5/3黒 褐色	粘土	灰黄褐色粘土と互層、B換区の7_{ca}層
13	2.5Y5/3暗灰黄色	粘土	
14	10YR5/3黒 色	粘土	
15	10YR5/3黒 色	粘土	
16	10YR5/3黒 褐色	粘土	
17	10YR5/3暗灰色	粘土	
18	5Y5/3灰色	粘土	
19	2.5Y5/3黄 灰色	粘土	
20	2.5Y5/3暗灰黄色	粘土	
21	10YR5/3黒 色	粘土	
22	2.5Y5/3黄 灰色	粘土	
23	10YR5/3黒 色	粘土	
24	2.5Y5/3黒 褐色	粘土	

第10図　A換気口区

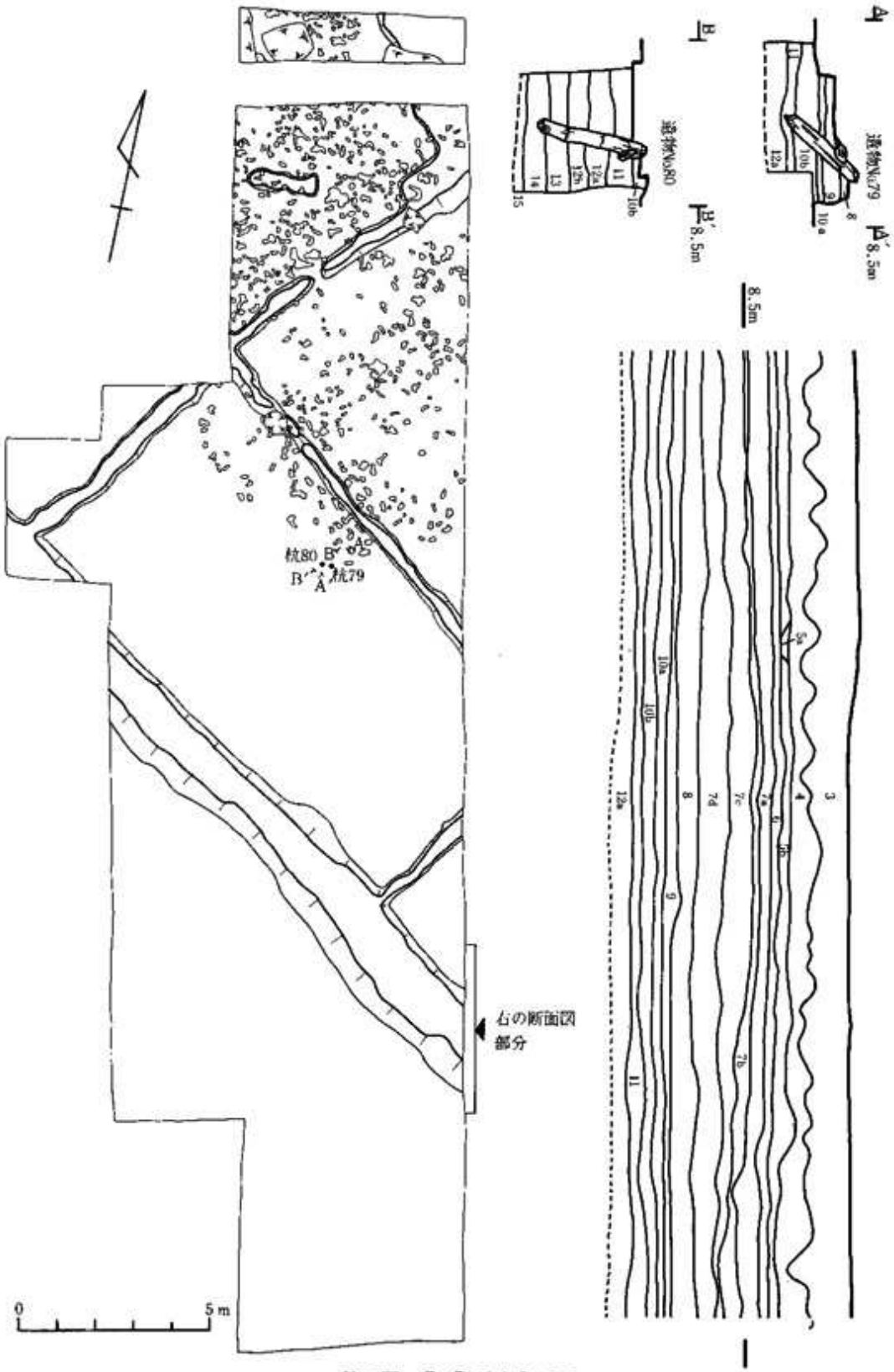




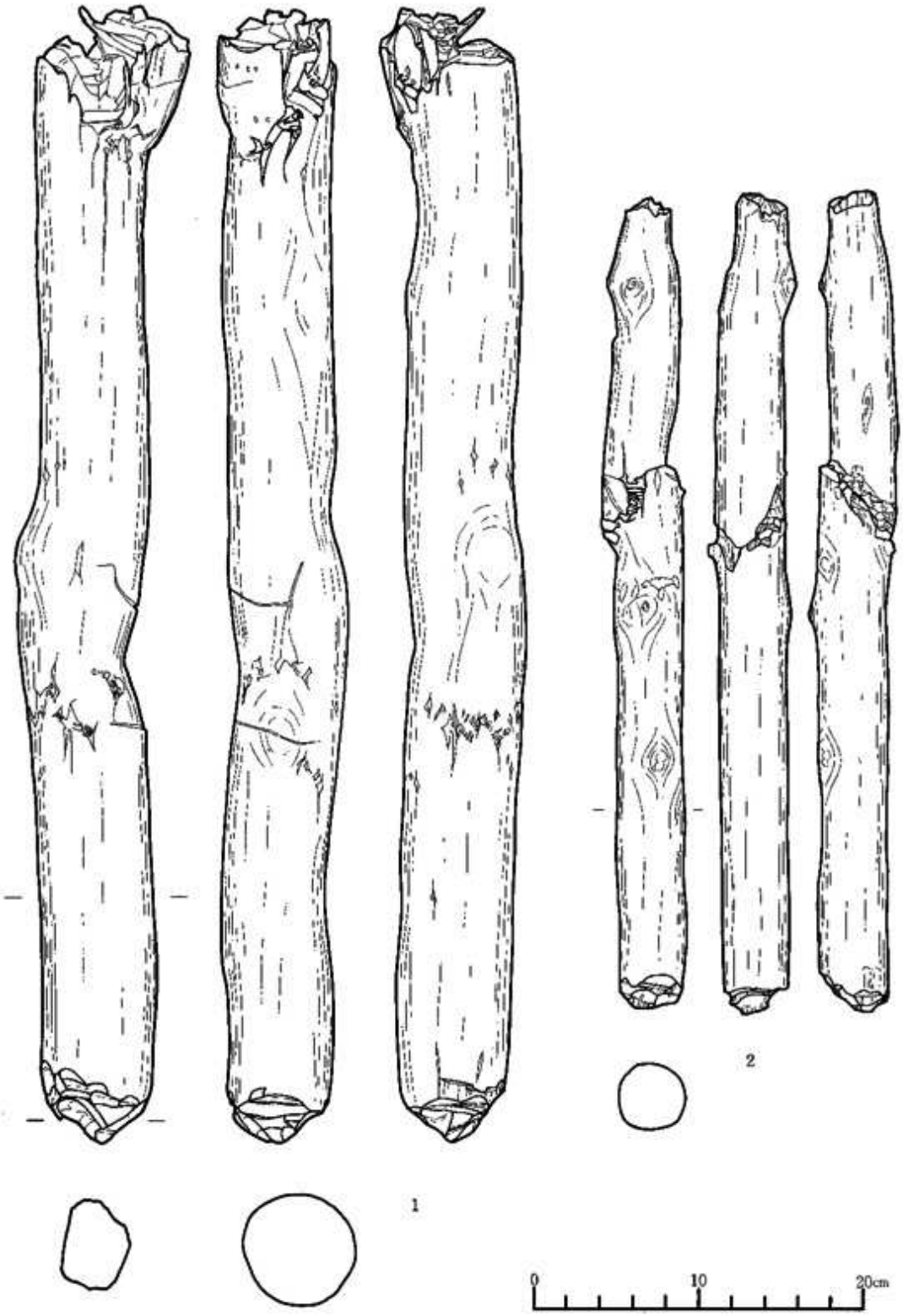
B換気口土層観察表

層位	土色	土性	備考
1	10YR⅔灰黄褐色	シルト	半耕作土
3	2.5Y⅔黒褐色	粘土	灰白色火山灰含む、A換区の4層
4	10YR⅓黒色	粘土	灰黄褐色粘土と互層、A換区の6層
5	10YR⅔褐灰色	粘土	A換区の7層
6	10YR⅔にぶい黄褐色	粘土	A換区の8層
7a	10YR⅓黒色	粘土	A換区の10層
7c1	10YR⅔黒褐色	粘土	弥生時代水田耕作土、A換区の12a層
7c2	10YR⅔黒褐色	粘土	暗灰黄色粘土と互層、大畦の下位に残存
7d	10YR⅓黒色	粘土	弥生時代水田耕作土
8	10YR⅔黒褐色	粘土	
9	10YR⅔黒色	粘土	
10	10YR⅔褐灰色	粘土	
11	10YR⅓黒色	粘土	
12	10YR⅔褐灰色	粘土	黒色粘土と互層
13	10YR⅔黒褐色	粘土	
14	10YR⅓黒色	粘土	
15	10YR⅔灰黄褐色	粘土	
16	10YR⅓黒色	粘土	
17	10YR⅔黒色	砂質粘土	
18	2.5Y⅔灰黄色	砂	
19	10YR⅔灰黄褐色	粘土	
20	10YR⅓黒色	粘土	
21	2.5Y⅔暗灰黄色	粘土	
22	10YR⅔黒褐色	粘土	
23	10YR⅔褐灰色	粘土	
24	10YR⅓黒色	粘土	10YR⅔灰黄褐色の火山灰を含む
25	7.5Y⅔灰オリーブ色	粘土	
26	2.5Y⅔黄灰色	砂	
27	5Y⅔灰オリーブ色	粘土	
28	2.5GY⅔オリーブ灰色	粘土	
29	7.5GY⅔緑灰色	粘土	
30	5GY⅔オリーブ灰色	シルト質粘土	
31	7.5GY⅔緑灰色	細砂	
32	5GY⅔オリーブ灰色	粘土	
33	2.5GY⅔オリーブ灰色	砂質シルト	
34	5GY⅔オリーブ灰色	砂	
35	5G⅔緑灰色	粘土	しまりかなりあり

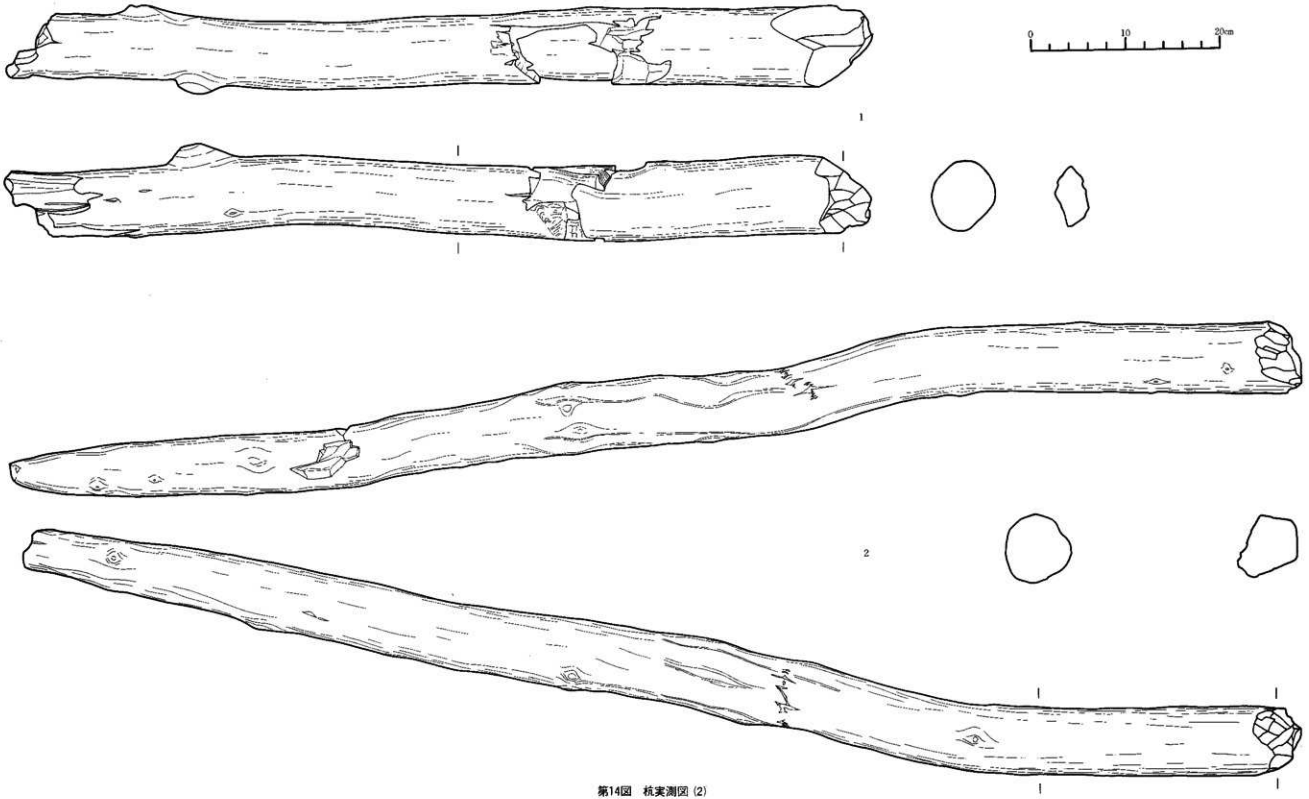
第11図　B換気口区



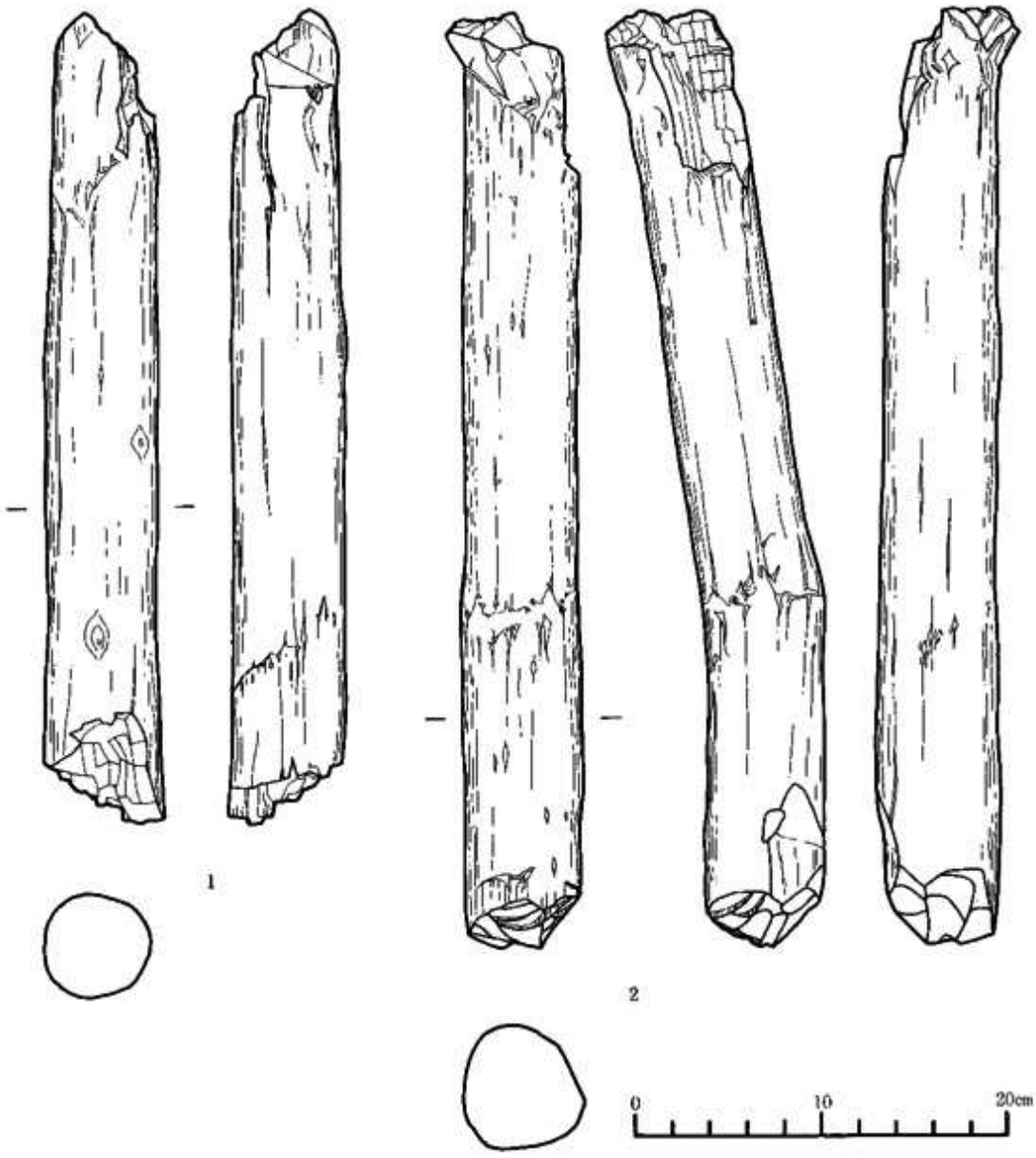
第12図　② ③ 番出入口区



第13図　杭実測図 (1)



第14図　杭実測図 (2)



杭観察表

図No.	出土区	層位	取上げNo.	素材	杭残存(cm)		末端部位(cm)				写真
					長さ	幅	長さ	加工回数	加工面の最大刃部幅	末端方向	
第13図1	A換区	15層	杭No.1	丸太材	69.0	6.8	5.0	26	4.2	根本	写真27-1
第13図2	A換区	15層	杭No.2	丸太材	49.6	4.0	2.4	9	2.4	根本	写真27-2
第14図1	A換区	16層	杭No.4	丸太材	91.2	7.3	7.2	15	4.3	根本	写真27-3
第14図2	A換区	16層	杭No.3、No.7	丸太材	136.0	7.2	5.0	20	4.3	根本	写真27-4
第15図1	出入口区	8層	遺物No.79	丸太材	43.4	5.8	—	—	—	—	写真27-6
第15図2	出入口区	10b層	遺物No.80	丸太材	50.2	6.4	8.5	20	3.0	根本	写真27-5

第15図　杭実測図(3)

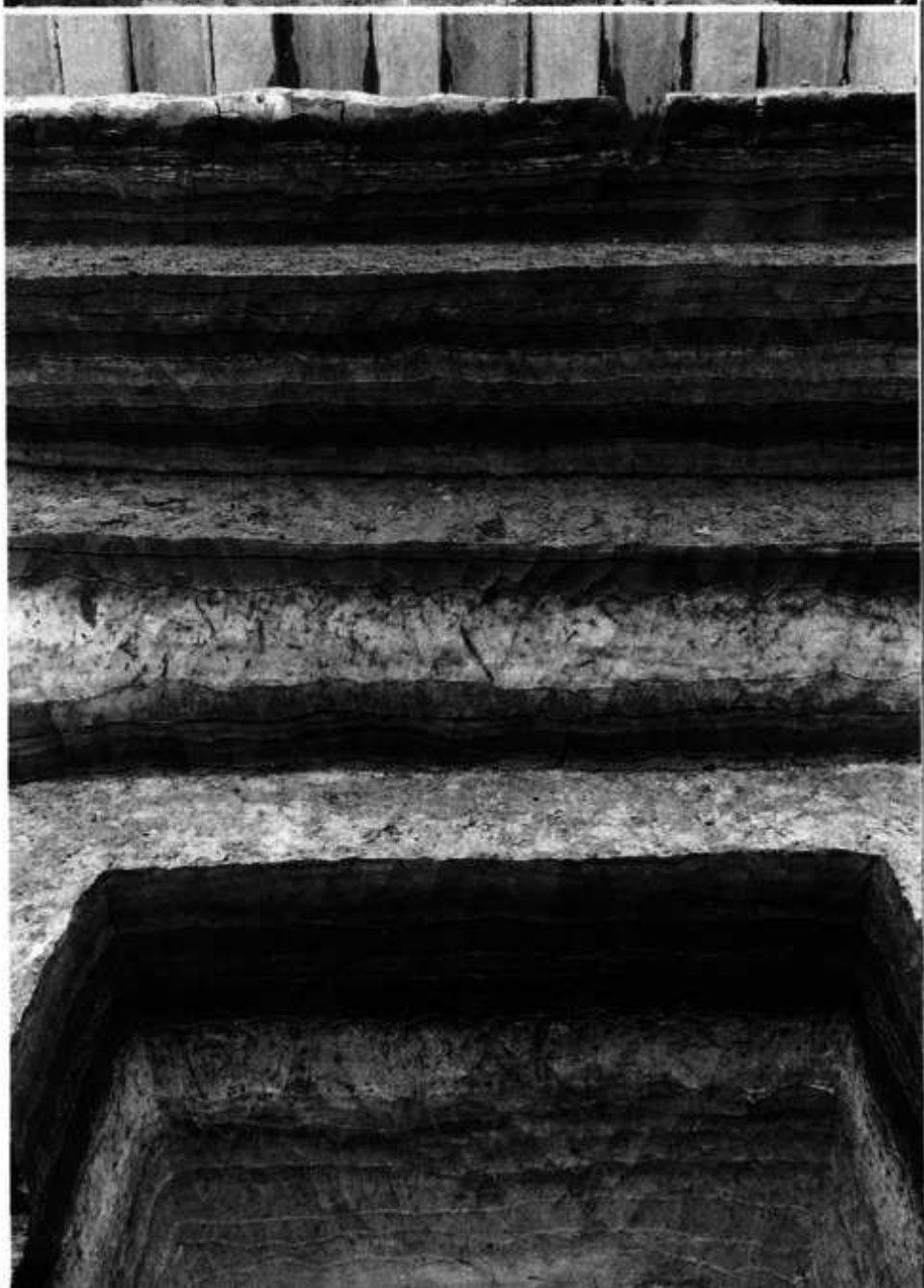
写真13　A換気口区
南壁断面

写真14　A換気口区
杭No．1、杭No．2

写真15　A換気口区
杭No．7

写真16　A換気口区
杭No．4

写真17　B換気口区
西壁断面



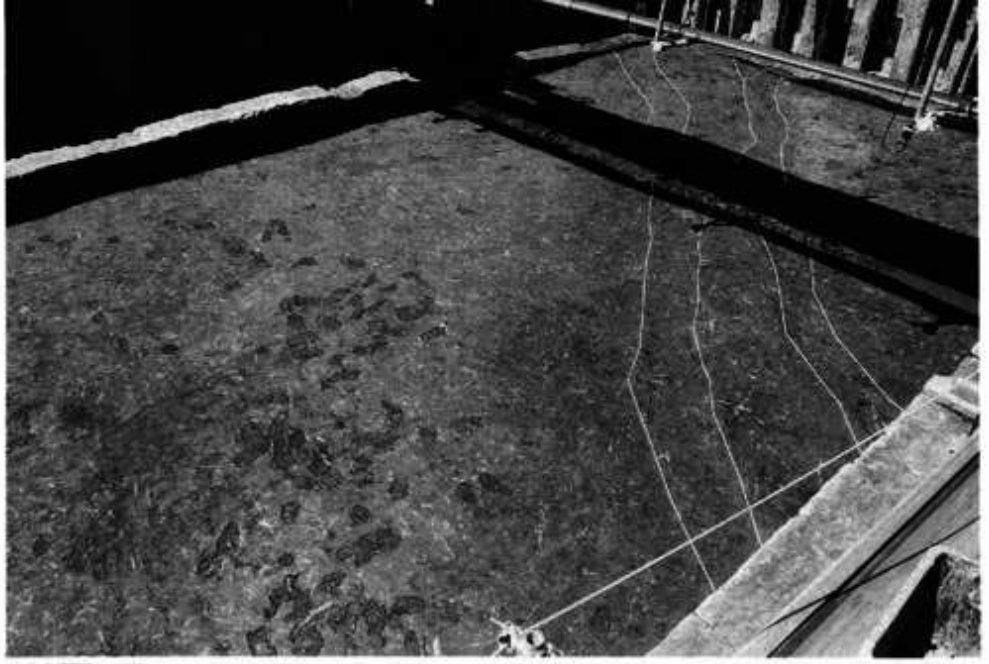


写真18　B換気口区
7c層水田跡

写真19　B換気口区
7d層水田跡

写真20　B換気口区
7c層足跡状凹み

写真21　B換気口区
東壁断面
（7c層の
大畦断面を含む）

写真22　B換気口区
東壁断面
（7d層の
大畦断面を含む）

写真23　②③番出入口区
7c層水田跡全景

写真24　②③番出入口区
7c層水田跡

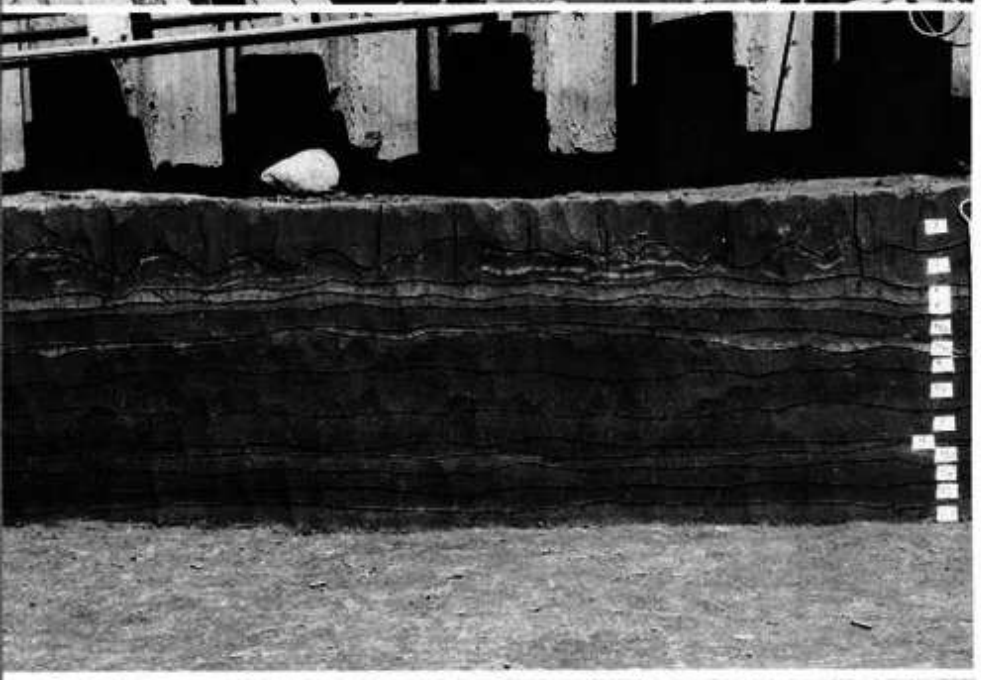
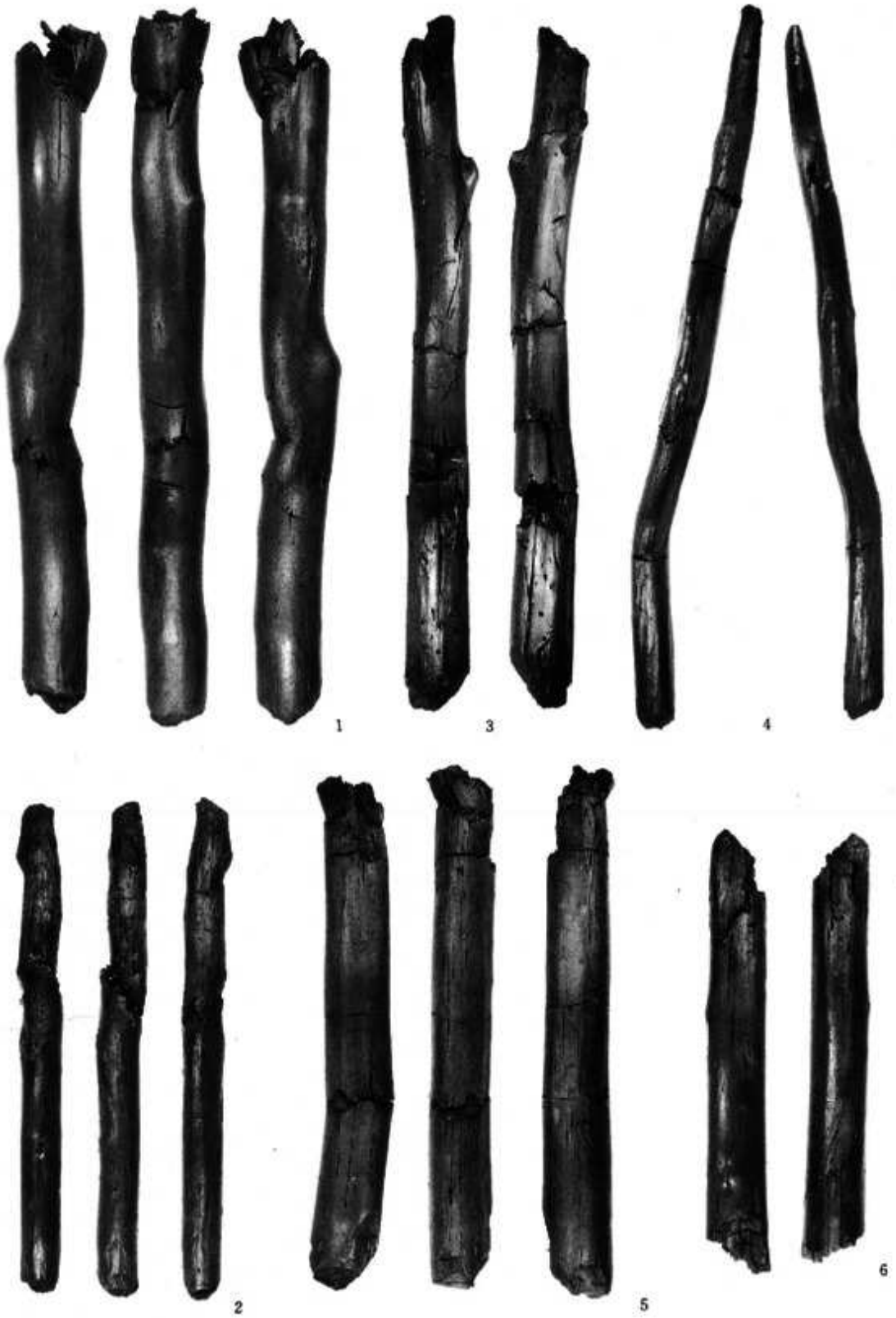


写真25　②③番出入口区
東壁断面
（7c層の
大畦を含む）

写真26　②③番出入口区
遺物No.79、No.80



1.A 換区杭No.1、2.A 換区杭No.2、3.A 換区杭No.3+7、4.A 換区杭No.4、5.出入口区遺物No.80、6.出入口区遺物No.79

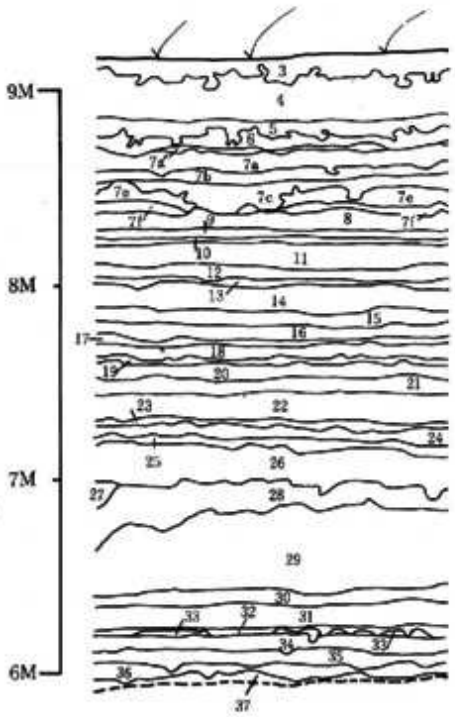
写真27　杭（1.2.5.6 は約⅙、3.は約⅕、4.は約⅓）

Ⅴ．富沢水田遺跡鳥居原地区33層の火山灰について

1．火山灰の検出

昭和57年度の富沢水田遺跡鳥居原地区の調査では、平安時代と弥生時代桝形囲式期の水田跡が検出されており、桝形囲式期の水田跡よりも下層の調査は、試掘トレンチ及び深掘り区の設定により８箇所で行なわれた。その結果、最も東の深掘り区の33層が、東北大学農学部庄子貞雄氏・山田一郎氏の分析により火山灰であることが判明した。この火山灰は34層の上にほぼ全面にわたってみられるが、層厚は２～３cm、厚い所で４cm程である。

鳥居原地区の基本層序は１～８層まで確認されており、９層以下の各層は、対応関係が不明なため各試掘区及び深掘り区毎に層名を与えている。火山灰の検出された深掘り区の層序は、１層旧耕作土、２層シルト層、３層粘土層、４～26層泥炭層、27～30層砂層、31・32層泥炭層33層シルト層、34層泥炭層、35～37層砂層で、35層以下には砂層が続き、37層の下位約4.5ｍには基底礫層がある。(注1) 火山灰の検出された層位は、鳥居原地区においては砂層の形成がほぼ終了し、泥炭の形成が始まって間もない頃と考えられる。また試掘トレンチ及び深掘り区の調査では７箇所全てにおいて砂層上部まで掘り下げているが、火山灰の検出されたのは１箇所だけ



第16図　富沢水田遺跡鳥居原地区深掘り区北壁断面図

写真28　富沢水田遺跡鳥居原地区深掘り区北壁断面

写真29　富沢水田遺跡鳥居原地区深掘り区西壁断面

であり、その分布は鳥居原地区全域にわたるものではなく、堆積条件の差異により部分的な分布を示していると考えられる。尚、27～30層の砂層は、35層以下の砂層の形成とは異なり、一時的な砂の供給の結果形成された層と考えられる。火山灰の分析・同定は、広域火山灰であることも想定し、群馬大学の新井房夫氏に依頼し、年代については、火山灰の上下の層が植物遺体を多く含むため31層・32層・34層の^{14}C年代測定を日本アイソトープ協会に依頼した。

2．火山灰の分析結果

富沢水田遺跡鳥居原地区33層火山灰分析結果（新井房夫氏による）

純化	一次鉱物組成		屈折率	備考
ランク	有色鉱物	ガラス		
C	シソ輝石 普通輝石 磁鉄鉱	軽石型	ガラス：1.514～1.516 (1.515) シソ輝石：1.708±	① アルカリ長石なし ② subalkalic ③ 大陸起源の恐れなし ④ 従来の既知テフラとの対比は不明

3．^{14}C年代測定結果

31層：5070±90y B.P.

32層：5440±80y B.P.

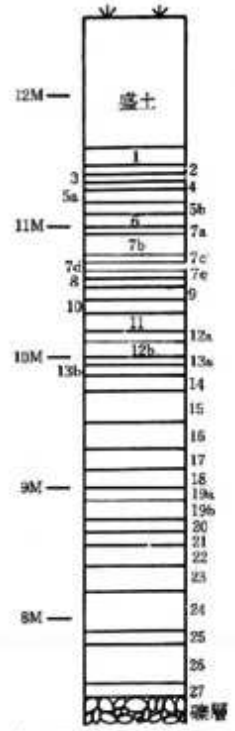
34層：5530±105y B.P.

4．小　結

以上のことから、富沢水田遺跡鳥居原地区33層の火山灰は、^{14}C年代測定結果に基づけば約5500年前のものであり、分析結果からは噴出源は不明であるが、大陸起源ではないことが知られた。さて、このシルト質の火山灰は灰白色を呈するが、類似する火山灰は富沢水田遺跡及びその周辺の数箇所で検出されている。

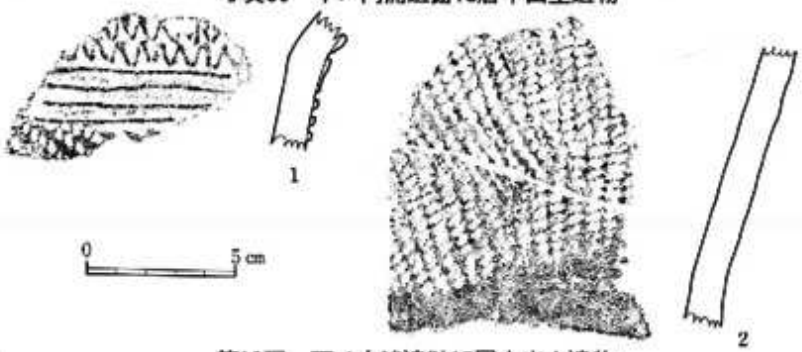
(1)山口遺跡下部火山灰：昭和56年度・57年度に行なわれた調査で、厚さ１～３㎜の灰白色火山灰が16層上面で検出されている。16層上面からは縄文時代早期末葉の土器が一括出土している。分析は庄子貞雄氏・山田一郎氏によりなされているが、噴出源は不明である。

(2)ドノ内浦遺跡16層中の灰白色シルト(注2)：昭和59年度に行なわれた調査で、16層中に灰白色のシルトがブロック状（１～２㎜）に含まれていることが確認された。この灰白色のシルトは、層相から火山灰と考えられるが、含まれていた量が極めて少なかったため分析は行なわれていない。また15層中からは大木5b式(注3)土器の破片が７点一括出土している。これらの土器片は、胎土・色調から同一個体である。器形は口縁部がやや外反する深鉢形と考えられるが、復元できないため、胴部上半と胴部下半の破片の拓本と写真を示した。第18図１は、口縁部付近の破片である。連続した山形の粘土紐の貼付を２段に施し、その下に横位に粘土紐を４条貼付ている。第18図２は胴部下半から底部付近にかけての破片である。地



第17図　下ノ内浦遺跡
基本層位模式図

写真30　下ノ内浦遺跡15層中出土遺物



第18図　下ノ内浦遺跡15層中出土遺物

は単節ＲＬ縄文であり、底部付近はナデを施し、無文としている。

(3)富沢水田遺跡（Ｂ換気口）24層中の灰白色シルト：昭和60年度に行なわれた仙台市高速鉄道建設に伴なう富沢水田遺跡鳥居原地区Ｂ換気口の調査では、24層中に灰白色のシルトがブロック状（５～20mm）に含まれていることが確認されている。

(4)富沢水田遺跡（長町折立線）31層中の灰白色シルト[注4]：昭和60年度に行なわれた仙台市都市計画街路長町一折立線建設に伴う富沢水田遺跡の北東端部の調査では、31層中に灰白色のシルトが確認されている。

以上のように、富沢水田遺跡及びその周辺には、灰白色を呈する火山灰もしくは火山灰と考えられる層が５地点で検出されている。これらの中で分析がなされているのは富沢水田遺跡鳥居原地区33層と、山口遺跡下部火山灰であるが共に噴出源は不明であり、年代的には前者が^{14}Ｃ年代測定結果に基づけば約5500年前であり、後者は縄文時代早期末葉と想定されている。今後富沢水田遺跡及びその周辺では、この２地点の火山灰とともに、大木５ｂ式期以前と考えられる下ノ内浦遺跡16層中の灰白色シルトをも含め、土壌学との連関のもとに詳細な分析を行ない噴出源を同定していく必要がある。

注１）仙台市高速鉄道建設に関するボーリング調査結果に基づく。
注２）仙台市教育委員会 1984.『山口遺跡Ⅱ』仙台市文化財調査報告書第61集。
注３）奥野義一 1970.「大木５ｂ式土器の提唱」『古代文化』第22巻第４号
注４）この灰白色のシルトは火山灰と想定され、現在庄子貞雄・山田一郎氏により分析・同定中である。

職　員　録

社会教育課

課長	阿部　達
主幹	早坂春一

文化財管理係

係長	佐藤政美
主事	岩沢克輔
〃	山口　宏

文化財調査係

係長	佐藤　隆
主事	結城　慎一
教諭	菅原　和夫
上事	木村　浩二
〃	篠原　信彦
教諭	小野寺和幸
〃	佐藤美智雄
主事	佐藤　洋
〃	金森　安孝
〃	佐藤　甲二
〃	吉岡　恭平
〃	工藤　哲司
主事	渡部弘美
教諭	渡辺　誠
主事	上浜光朗
〃	斎野裕彦
〃	長島栄一
〃	及川　格
教諭	千葉　仁
〃	松本清一
主事	高橋　栄
〃	鈴木善弘
派遣職員	高橋勝也

仙台市文化財調査報告書刊行目録

第１集　天然記念物霊屋下セコイヤ化石林調査報告書（昭和39年４月）
第２集　仙台城（昭和42年３月）
第３集　仙台市燕沢薬応寺横沢六古墳群調査報告書（昭和43年３月）
第４集　史跡陸奥国分尼寺跡環境整備並びに調査報告書（昭和44年３月）
第５集　仙台市南小泉法領塚古墳調査報告書（昭和47年８月）
第６集　仙台市荒巻五本松窯跡発掘調査報告書（昭和48年10月）
第７集　仙台市高沢裏町古墳発掘調査報告書（昭和49年３月）
第８集　仙台市向山愛宕山横穴群発掘調査報告書（昭和49年５月）
第９集　仙台市根岸町宗禅寺横穴群発掘調査報告書（昭和51年３月）
第10集　仙台市中田町安久東遺跡発掘調査概報（昭和51年３月）
第11集　史跡遠見塚古墳環境整備予備調査概報（昭和51年３月）
第12集　史跡遠見塚古墳環境整備第二次予備調査概報（昭和52年３月）
第13集　南小泉遺跡―範囲確認調査報告書―（昭和53年３月）
第14集　栗遺跡発掘調査報告書（昭和54年３月）
第15集　史跡遠見塚古墳昭和53年度環境整備予備調査概報（昭和54年３月）
第16集　六反田遺跡発掘調査（第２・３次）のあらまし（昭和54年３月）
第17集　北屋敷遺跡（昭和54年３月）
第18集　枡江遺跡発掘調査報告書（昭和55年３月）
第19集　仙台市地下鉄関係分布調査報告書（昭和55年３月）
第20集　史跡遠見塚古墳昭和54年度環境整備予備調査概報（昭和55年３月）
第21集　仙台市開発関係遺跡調査報告１（昭和55年３月）
第22集　経ヶ峯（昭和55年３月）
第23集　年報１（昭和55年３月）
第24集　今泉城跡発掘調査報告書（昭和55年８月）
第25集　三神峯遺跡発掘調査報告書（昭和55年12月）
第26集　史跡遠見塚古墳昭和55年度環境整備予備調査概報（昭和56年３月）
第27集　史跡陸奥国分寺昭和55年度発掘調査概報（昭和56年３月）
第28集　年報２（昭和56年３月）
第29集　郡山遺跡Ⅰ―昭和55年度発掘調査概報―（昭和56年３月）
第30集　山田上ノ台遺跡発掘調査概報（昭和56年３月）
第31集　仙台市開発関係遺跡調査報告２（昭和56年３月）
第32集　鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書（昭和56年３月）
第33集　山口遺跡発掘調査報告書（昭和56年３月）
第34集　六反田遺跡発掘調査報告書（昭和56年12月）

第35集　南小泉遺跡－都市計画街路建設工事関係第１次調査報告（昭和57年３月）
第36集　北前遺跡発掘調査報告書（昭和57年３月）
第37集　仙台平野の遺跡群Ⅰ－昭和56年度発掘調査報告書－（昭和57年３月）
第38集　郡山遺跡Ⅱ－昭和56年度発掘調査概報－（昭和57年３月）
第39集　燕沢遺跡発掘調査報告書（昭和57年３月）
第40集　仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅰ（昭和57年３月）
第41集　年報３（昭和57年３月）
第42集　郡山遺跡－宅地造成に伴う緊急発掘調査－（昭和57年３月）
第43集　栗遺跡（昭和57年８月）
第44集　鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書（昭和57年12月）
第45集　茂庭－茂庭住宅団地造成工事地内遺跡発掘調査報告書－（昭和58年３月）
第46集　郡山遺跡Ⅲ－昭和57年度発掘調査概要－（昭和58年３月）
第47集　仙台平野の遺跡群Ⅱ－昭和57年度発掘調査報告書－（昭和58年３月）
第48集　史跡遠見塚古墳昭和57年度環境整備予備調査概報（昭和58年３月）
第49集　仙台市文化財分布調査報告Ⅰ（昭和58年３月）
第50集　岩切畑中遺跡発掘調査報告書（昭和58年３月）
第51集　仙台市文化財分布地図（昭和58年３月）
第52集　南小泉遺跡－都市計画街路建設工事関係第２次調査報告（昭和58年３月）
第53集　中田畑中遺跡発掘調査報告書（昭和58年３月）
第54集　神明社窯跡発掘調査報告書（昭和58年３月）
第55集　南小泉遺跡－青葉女子学園移転新営工事地内調査報告（昭和58年３月）
第56集　仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅱ（昭和58年３月）
第57集　年報４（昭和58年３月）
第58集　今泉城跡（昭和58年３月）
第59集　下ノ内浦遺跡（昭和58年３月）
第60集　南小泉遺跡－倉庫建築に伴う緊急発掘調査報告書－（昭和58年３月）
第61集　山口遺跡Ⅱ－仙台市体育館建設予定地－（昭和59年２月）
第62集　燕沢遺跡（昭和59年３月）
第63集　史跡陸奥国分寺跡昭和58年度発掘調査概報（昭和59年３月）
第64集　郡山遺跡Ⅳ－昭和58年度発掘調査概要－（昭和59年３月）
第65集　仙台平野の遺跡群Ⅲ－昭和58年度発掘調査報告書－（昭和59年３月）
第66集　年報５（昭和59年３月）
第67集　富沢水田遺跡－第１溝－泉崎前地区（昭和59年３月）
第68集　南小泉遺跡－都市計画街路建設工事関係第３次調査報告（昭和59年３月）
第69集　仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅲ（昭和59年３月）
第70集　戸ノ内遺跡発掘調査報告書（昭和59年３月）
第71集　後河原遺跡（昭和59年３月）
第72集　六反田遺跡Ⅱ（昭和59年３月）
第73集　仙台市文化財分布調査報告書Ⅱ（昭和59年３月）
第74集　郡山遺跡Ⅴ－昭和59年度発掘調査概報－（昭和60年３月）
第75集　仙台平野の遺跡群Ⅳ（昭和60年３月）
第76集　仙台城三ノ丸跡発掘調査報告書（昭和60年３月）
第77集　山田上ノ台遺跡－昭和59年度発掘調査報告書－（昭和60年３月）
第78集　中田畑中遺跡－第２次発掘調査報告書－（昭和60年３月）
第79集　欠ノ上Ⅰ遺跡発掘調査報告書（昭和60年３月）
第80集　南小泉遺跡－第12次発掘調査報告書－（昭和60年３月）
第81集　南小泉遺跡－第13次発掘調査報告書－（昭和60年３月）
第82集　仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅳ（昭和60年３月）
第83集　年報６（昭和60年３月）
第84集　仙台市文化財分布調査報告書Ⅲ（昭和60年３月）
第85集　宮城県仙台市愛宕山装飾横穴古墳発掘調査報告書（昭和60年８月）
第86集　郡山遺跡Ⅵ（昭和61年３月）
第87集　仙台平野の遺跡群Ⅴ－昭和60年度発掘調査報告書－（昭和61年３月）
第88集　上野遺跡発掘調査報告書
第89集　仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅴ
第90集　若林城跡－平安時代の集落跡
第91集　東北電力鉄塔関係遺跡調査報告書
第92集　五城中北窯跡発掘調査報告書
第93集　年報７（昭和61年３月）

仙台市文化財調査報告書第89集
昭和60年度
仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅴ
昭和61年3月
発行　仙台市教育委員会
仙台市国分町3－7－1
仙台市教育委員会社会教育課
印刷　株式会社 東北プリント
仙台市立町24－24　TEL 63…1166